

首都大学東京 都市環境学部 自然・文化ツーリズムコース
首都大学東京大学院 都市環境科学研究科 観光科学域

ANNUAL REPORT FY 2019

Department of Tourism Science, Tokyo Metropolitan University



目次

01		1. スタッフ
02		2. 研究概要
16		3. 研究成果
24		4. 特定学術研究
26		5. 学生教育
28		6. ECO-TOP プログラム
28		7. ASEAN 国際学生交流事業学生派遣プログラム
28		8. 観光経営副専攻
29		9. 社会貢献
32		10. 受賞等
33		11. コース・学域プロモーション

1. スタッフ

1.1 自然環境マネジメント領域

菊地 俊夫

教授／理学博士（筑波大学）
地理学（農業・農村地理学，観光地理学），自然ツーリズム学

沼田 真也

教授／博士（理学）（東京都立大学）
熱帯生物学，都市生態学，自然保護地域管理

大澤 剛士

准教授／博士（理学）（神戸大学）
生物多様性情報学，生態系管理学，保全科学

杉本 興運

助教／博士（観光科学）（首都大学東京）
観光地理学，応用地理学，地理情報学

高木 悦郎

助教／博士（農学）（東京大学）
森林動物学，個体群生態学，ナチュラルヒストリー

ラナウィーラゲ エランガー

特任助教／博士（観光科学）（首都大学東京）
wildlife based tourism, human dimensions of wildlife

矢ヶ崎 太洋

特任助教／博士（理学）（筑波大学）
人文地理学，災害地理学

1.2 地域計画・マネジメント領域

清水 哲夫

教授／博士（工学）（東京工業大学）
交通学，観光計画学，観光政策学，社会基盤計画学
※コース長／学域長

川原 晋

教授／博士（工学）（早稲田大学）
観光まちづくり，観光地域マネジメント，都市デザイン

岡村 祐

准教授／博士（工学）（東京大学）
都市デザイン，都市計画，観光まちづくり，観光地域史

片桐 由希子

助教／博士（学術）（慶應義塾大学）
ランドスケープ計画，観光計画

野田 満

助教／博士（工学）（早稲田大学）
農村計画，都市・地域デザイン，観光まちづくり

古川 尚彬

特任助教／修士（建築学）（早稲田大学）
都市計画，住環境改善，歴史的環境保全

平田 徳恵

特任助教／博士（観光科学）（首都大学東京）
地域ブランディング，観光まちづくり，空間デザイン，環境色彩

上原 明

特任助教／博士（観光科学）（首都大学東京）
観光者心理学（環境心理学，消費者行動）

1.3 行動・経営科学領域

倉田 陽平

准教授／Ph.D.（空間情報理工学）（University of Maine）
地理情報学，観光情報学

直井 岳人

准教授／学術（The University of Surrey），工学（東京工業大学）
観光学

日原 勝也

准教授／博士（経営学）（筑波大学）
ミクロ経済学，経営学，観光政策，交通政策

Wu Lingling

准教授／博士（広島大学）
観光マーケティング

小笠原 悠

助教／博士（工学）（弘前大学）
社会システム工学

戸崎 肇

特任教授／博士（広島大学）
観光マーケティング

阿曾 真紀子

特任助教／修士（観光学）琉球大学
経営学修士（専門職・MBA）京都大学

2. 研究概要

2.1 自然環境マネジメント領域

大都市における農空間の保全と適正利用に関する研究 (菊地俊夫)

東京を農共生都市と位置づけ、東京の「農」に関わる広義のステークホルダーの現状とそれぞれの関係性について把握した上で、それぞれの有機的な繋がりとそれらの将来的な持続性を図るための調査、研究を実施した。さらに、「農」の「業」として持続性を図るための農業後継者や新規就農者などの人材育成を行うとともに、新たなタイプの市民農園やコミュニティガーデンなどのさまざまな社会実験を行い、それらの実施による「農」空間の保全と活用の可能性を自治体や地域の性格、あるいは地域の諸条件に基づいて可能性を検討した。具体的には、東京大都市圏における「農」と「業」、「土地」、「教育」、「福祉」、「安全」との組み合わせタイプの最適立地や最適分布を地域ごとに明らかにし、「農」空間の適正配置の可能性を検討した。その結果、農業体験農園や市民農園が「農」と「業」、「土地」、「教育余暇」、「福利厚生」、「安全安心」のノードとなることが明らかになった。



東京大都市近郊の小平市における農業体験農園

フードツーリズムのフレームワークを用いた農村再生システムの地理学的研究 (菊地俊夫)

カナダ・バンクーバー島のカウティンバレーやオーストラリア・パース近郊のスワンバレーのワインツーリズムを事例にして、フードツーリズムのフレームワークを用いた農村再生システムを検討した。事例地域におけるワインツーリズムの共通した特徴は、ワイナリーと地元農産物の生産農場とが結びつくようになったことである。このことは、スローフードを核とする農村空間の商品化にも寄与することになった。また、小規模ワイナリーから大規模ワイナリーまでの結びつきや地元農産物の生産農場との結びつきは、ウィークエンドに開催されるファーマーズマーケットの来店を促し、それを契機にしてフードツーリズムのさらなる発展が確かなものになった。このようなファーマーズマーケットはワインツーリズムを核とするフードツーリズムの1つの要素として取

り込まれている。これらの要素の結びつきが農村空間の商品化や農村再生に体系的に機能し、農村再生が達成されている。



カナダ・バンクーバー島における
ワインツーリズムの核となるワイナリー

カナダにおける農村空間の商品化による都市-農村共生システム構築の実証的研究 (菊地俊夫)

本研究ではカナダのブリティッシュコロンビア州において、農村空間の商品化がいかなる形態で、どのように進み、農業、農村が維持されているのか、それによってどのように都市-農村共生システムが構築されているのかをクートニー地域の有機農業の実証研究に基づいて明らかにした。この地域では地元産の新鮮、高品質で、安全安心な農産物の需要が高まり、それが有機農業の発展の契機になった。有機農業によって農産物に付加価値をつけて地元の需要に応えるという形の農村空間の商品化が、クートニー地域の特徴である。その際に重要な役割を果たしているのが、クートニーCo-op とファーマーズマーケット、そして CSA (Community Supported Agriculture: 地域支援型農業) であった。この地域では人口が少なく農産物市場が小さいこと、他地域から食料品を輸送するコストが高いことが、外部との食料品搬出、搬入の障害となり、地元向けの安全安心な食料生産を発



カナダ・クートニー地域における
有機農業における野菜栽培

展させる要因になった。

ルーラルジェントリフィケーションにともなうルーラルリティの保全と活用に関する日英の比較研究 (菊地俊夫, Martin Phillips (Visiting Professor and a Professor of Geography, University of Leicester, UK))

本研究は、グローバル化が進展する社会における都市のジェントリフィケーションと農村のルーラルジェントリフィケーションとのネクサス（連環）を目指し、それにもなつてルーラルリティの保全と活用の在り方を日本とイギリスで比較した。ルーラルジェントリフィケーションの発展により日本とイギリスの農村で共通した特徴は農村の変化である。しかし、日本とイギリスにおける農村の変化には大きな違いがあった。日本の農村においては、農村の生活や農村景観が変化し、ルーラルリティがアーバンリティとの競合のなかで失われている。他方、イギリスでは農村生活の変化は生じているが、農村景観は維持され、ルーラルリティを生かした居住環境づくりが行われている。このような地域的な差異が生じた要因は、日本とイギリスにおけるルーラルリティの価値観や意味づけの違いがあり、それは都市と農村のネクサスや関係性、あるいは都市農村の分離性や連続性に基づくものであることを明らかにした。



イギリスのミッドランド地域における
ルーラルリティの活用に関する調査

大都市における農空間の保全と適正利用に関する研究 (菊地俊夫, 太田慧)

都市農業が都市域ないしは市街化地域で行われていることは、世界的に共通する認識である。しかし、都市農業の形態や機能には場所によって違いがある。都市農業の機能を食料供給と、余暇空間や緑地空間の提供に大別すると、どちらに重きを置くかによって都市農業に関する性格や農村空間の商品化の様相は大きく異なる。本研究は都市農業の発展とそれにもなつて農空間の保全の仕方と適正利用を、カナダ・ブリティッシュコロンビア州のバンクーバー大都市圏を東京大都市圏との地域比較を通じて、それぞれの地域的な特徴を明らかにすることを目的に進めてきた。バンクーバー大都市圏の都市農業は食料供給のための農業生産よりも、コミュニティガーデ

ンとして都市環境における緑地空間や余暇空間の維持に重きを置いている。東京大都市圏の都市農業はさまざまな不利な環境があるにも関わらず、農地を維持する目的でさまざまな工夫を凝らして農業生産を継続している。都市農業は農業生産だけでなく、緑地機能や住環境の向上、あるいは余暇・レクリエーション機能や地域コミュニティの維持機能など多様な機能をもつことで特徴づけられている。いわば、都市農業の農地は生産空間だけでなく、消費空間としても活用されている。そこで、本研究は都市農業の発展を生産空間と消費空間の2つの側面を踏まえながら検討した。2つの側面の捉え方は、都市農業の農地や場を「農業空間」として捉えるか、「農空間」として捉えるかの違いに反映される。

都市域の生物多様性管理に関する研究 (沼田真也, 杉本興運, 高木悦郎)

都市住民と多様な生物の共存に必要な条件を明らかにするため、都市の生物がもたらす負の生態系サービス（ディスサービス）に注目し、都市住民の生物や自然的景観に対する嗜好性やディスサービスに対する受容性、そしてそれらを緩和することが可能な要因（幼少期自然体験等）について検討を進めている。本年度は都市公園に生息するアリ類のもつ生態系サービスの分析を進め、論文として発表した。

フェノロジー観測と人間の選好から見た開花、新葉、落葉の見頃に関する研究 (沼田真也)

日本の来日訪問客の多くは、日本における生物季節に興味を持つことが知られており、花見や紅葉などに代表される生物季節（フェノロジー）は日本のインバウンド観光マーケットを促進する可能性を有するといえる。しかし、外国人訪問客が植物のどのような変化に興味を持ち、好むかは不明である。本研究では日本の樹木のフェノロジーとそれらに対する人々の嗜好を理解することを目的として研究を行った。その結果、開花、新葉、落葉では見ごろの期間は異なること、新葉や落葉の見ごろは物理的（日射量）や生物的（虫害）により変化することを明らかにした。また、国籍により見ごろが異なり、中国、東南アジアの人々は日本人と比べて、見ごろの範囲が広いことが示唆された。（付瓊慧 修士論文）。

熱帯雨林の野生生物観光 (沼田真也, 高木悦郎)

熱帯雨林を保全するための手段の一つとして観光に注目が集まっているが、その魅力を伝えることが課題となっている。観光客の多くは野生生物観察に対する関心や期待は大きいものの、通常、熱帯雨林では野生生物は密度が低く、夜行性のものが多いため、観察するのは簡単ではない。そのため、野生生物と観光客との接点は小さく、野生生物観光としての満足度はあまり高くない。そこで、東南アジア熱帯雨林において、野生生物の生態学的研究手法を活用した観光アトラクションプログラム（バーチャルハンティングプログラム：VH）の開発を進めている。2019年度はマレーシア工科大学に滞在し、エンダウロンピン国立公園において野生生物に関する調査

を行った。また、エンダウロンピン国立公園およびタマンネガラ（国立公園）の公演管理者とVHの事業化に向けた議論を行った。

自然史資料に基づく生物多様性情報学（大澤剛士）

標本や観察情報、市民参加型調査等、必ずしも厳密な調査デザインに基づいて取得されたわけではない各種自然史資料の収集、整理、さらには有効な利用方法についての検討を行っている。これら広範にわたる生物多様性情報学について、特に生態学への貢献という観点から既往研究、取り組みをまとめた総説を公表した（Osawa 2019）。

自然の恵み「生態系サービス」の視覚化、定量に向けた研究（大澤剛士）

自然環境、半自然環境から得られる人間への利益を「生態系サービス」という。生態系サービスには既に人間が認識し、積極的に利用しているものから、いまだ人間が気づいていない潜在的なものまで多種多様なものがあると考えられている。これら生態系サービスについて、潜在的な価値の捕捉、認識されながらも定量評価がなされていないサービスの定量化に向けた検討を行っている。本年は、土地利用に注目し、土地利用形態それぞれが持つ生態系サービス間のトレードオフ、シナジー関係を検討し、複数の生態系サービスを楽しむ可能性について検討を行った（Matsuzaki et al. 2019）。

外来生物の管理に関する研究（大澤剛士）

国際貿易の発展等に伴い、現在、日本には意図的、非意図的に人間によって国外から持ち込まれた生物が多数生息している。世界自然遺産として国際的に知られる小笠原諸島も、観光客の増加をはじめとする人間活動の活発化に伴い、外来生物による様々な被害が顕在化している地域である。これら外来生物による被害を定量把握するとともに、対象種の駆除を含めた適切な管理手法を提案することを目的とした研究に取り組んでいる。本年度は、外来植物であるギンネムが急激に分布域を拡大している無人島を対象に、種が持つ生態特性を考慮して空間的な管理優先順位を設定する手法を提案した（Osawa et al. 2019）。また、数値シミュレーションを行うことで駆除が生態系全体にもたらす影響の予測評価も行った（Yoshida et al. 2019）。

観光行動動態の解析および地理的可視化の方法論構築に関する一連の研究（杉本興運）

観光行動の動態を時間的、空間的に分析し、観光現象の一端を解明し、その知見を観光インパクト評価や観光マーケティングなどに活用することを目的とした一連の研究を行った。まず、パーソントリップデータが詳細化された大規模人流データによって、都市圏スケールにおける観光行動動態を分析し、一日の活動時間配分、都市圏構造との関係、夜間での空間選択についての分析を行った。また、自治体と連携してGPSロガーと質問紙を組み合わせた調査を実施し、観光地内での出発地点によ

って観光客の空間消費や移動性がどのように異なるか、また、移動パターンがどのような環境的要因によって誘発されるのかを分析した。その他、ボランティア地理情報データを使った観光行動の分析の可能性を、北海道におけるサイクルツーリストを事例に検討した。

都市と観光地における生物間相互作用の解明（杉本興運、矢ヶ崎太洋、菊地俊夫）

大都市内部の観光地は、都市住民という巨大市場を背景に、その需要に対応することで安定した観光地経営の基盤を築いてきた。しかし、都市開発、競合地域の成長、住民の世帯交代や人口移動、流行、国際化の進展による訪日外国人増加などの諸要因による都市構造の変化に伴い、都市観光地としての様相や求められる魅力が刻々と変化し、様々な課題が浮上しているのもまた事実である。本研究プロジェクトでは、東京都の上野地域を事例に、今後の上野地域の再構築を進めるための戦略立案に必要な地域動態、観光動態に関する総合的研究を実施している。2019年度は、これまでの研究結果をまとめ、それらを上野地域の記念史および一般向け書籍として発表するための執筆作業を進めた。記念史については刊行し、上野観光連盟70周年記念式典にて参加者へ贈呈した。

大規模POIデータを活用した観光関連産業の空間分析（杉本興運）

本研究は、大規模POI（Points of Interest）データを活用した観光関連産業の分析手法を提案し、また、その有用性を検討した。2019年度は、飲食店のPOIデータを用い、飲食店の集積と営業時間からみた東京都心の代表的な商業地の時空間特性や夜間経済ポテンシャルを明らかにするための研究を行った。また、東京全域および東京を代表する都市観光地、上野にて、多種類の観光POIデータを使った空間解析を行い、観光からみた地域の空間特性を明らかにした。

昆虫の個体群動態と観光の関係（高木悦郎）

昆虫は、膨大な種数、個体数、および生物量を誇り、地球上のあらゆる地域に生息し、生態系において様々な重要な役割を担っている。また、世界中で一般的に認知度や好感度の低い生物であり、日本を除いて観光対象となることはほとんどない。

昆虫が持つ特徴の一つに、高い生態系エンジニアリング能がある。様々な昆虫が、劇的に生態系を変化させる。最近、この昆虫の生態系エンジニアリング能による生態系変化が、人間に与える文化的影響が注目されつつある。しかし、観光に及ぼす影響に関する知見はほぼない。

そこで本研究課題では、特に、昆虫の生態系エンジニアリング能に注目して、1) 昆虫が大発生する要因、および2) 昆虫の大発生が起こった際に観光に及ぼす影響を明らかにすることを目的として、野外調査、野外実験、および室内実験を行っている。

今年度は、ロシアを中心に森林に大きな被害を及ぼしているキクイムシ類の1種の生態学的新知見を明らかにした。

日本の大学における交換留学生の観光動機（ラナウィーラゲエランガー）

日本における留学生数は増え続けており、留学生による日本国内観光活動も拡大傾向にある。本研究は首都大学東京のAIMS 交換留学プログラムに参加したマレーシア人留学生を事例に、交換留学生による旅行意思決定に影響する観光動機をプッシュ誘因とプル誘因の概念を用いて分析した。結果として、マレーシア人留学生が旅行するかどうかを決定するプッシュ誘因とプル誘因を特定することができた。加えて、これらのプッシュ誘因とプル誘因の相関も見られた。本研究の結果はマレーシア人留学生の旅行市場に対するニーズを理解するために役に立つ。

東日本大震災による津波災害後の人口減少と地域社会の再編に関する研究（矢ヶ崎太洋）

東日本大震災は三陸沿岸地域に大きな津波災害をもたらした。被災した地域社会は、防災集団移転などの住宅移転によって津波リスクを軽減した。その一方で、三陸沿岸地域では災害後の住民の転出によって人口減少の傾向にあり、地域社会は大きな再編を迫られつつある。本研究は、東日本大震災後に人口減少と地域組織の再編を経験した宮城県気仙沼市の事例から、その対応のメカニズムを明らかにした。東日本大震災前から農山漁村は人口流出の傾向にあり、東日本大震災はその潮流を加速させた。特に、東日本大震災後は気仙沼市の内陸には新しい人口集中がみられ、人口分布は大きく変化していた。津波によって大きな被害を受けた地域社会は人口流出を経験するものの、自治会間の連携の強化や、転出者を自治会の賛助会に組み込むことで、人口流出による負の影響を緩和した。

日本におけるゴーストツーリズムと心霊スポットに関する研究（上原明、矢ヶ崎太洋）

夜は人間の開放感と恐怖の入り混じる時間帯である。夜や暗闇への恐怖は幽霊や妖怪を生み出し、現代でも都市伝説やオカルトという形で存続する。これらの都市伝説やオカルトは恐怖だけでなく好奇心の対象として消費されており、ゴーストツアーという形態で顕在化する。本研究は、心霊スポットおよび心霊ツアーを対象に、夜の場所に対する人間の恐怖と、その恐怖に対する好奇心を動機としたツーリズムを分析することで、人間が感じる恐怖と場所との関係性について考察した。心霊スポットは、場所の特性を反映して、恐怖の対象が異なり、その差異は怪談に現れる。日本におけるゴーストツーリズムは、実施企業にとって宣伝・広告の意味を持ち、倫理的な配慮がなされる。心霊スポットの分布と心霊ツアーのコースは一致せず、ツアーでは主に郊外の心霊スポットを消費している。

2.2 地域計画・マネジメント領域

国や都市・地域における観光振興の政策立案に資する研究（清水哲夫、片桐由希子）

国や都市・地域の観光振興に必要な政策を提言するための基礎研究を複数実施した。第一に、ネパールのヘルスツーリズムの競争力を高める政策を提言することを目的に、観光客のニーズと供給側の戦略に関する意識・インタビュー調査を実施し、将来想定されるニーズとサービスギャップを明らかにした。第二に、インドネシア島しょ部を事例に、島内の経済効果を高めるための観光政策提言を行うための産業連関分析を行った。第三に、日本のインバウンド観光客誘致プロモーションに対する成田空港トランジットプログラムの活用可能性に関して、ステークホルダーに対するディープインタビュー調査やコンテンツ分析を通じて検証した。第四に、八ヶ岳観光圏エリアを対象に、移住志向型ライフスタイル価値観の形成に旅行・滞在経験が及ぼした影響を分析した。

地域観光振興に資する交通政策・施策に関する研究（清水哲夫、片桐由希子）

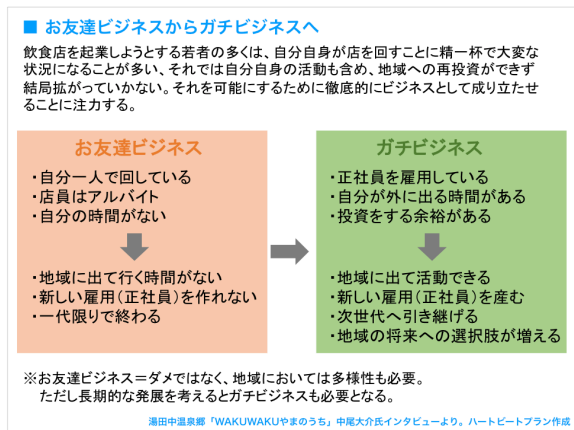
観光振興を目的とした地域交通サービス展開に必要な政策や施策を提言する基礎研究を複数実施した。第一に、バリ島を事例に、外国人観光客によるドライブ観光の戦略的重要性を明らかにし、道路交通における観光客と地元住民のコンフリクトの要因と明らかにするとともに、その解消に向けた施策を提言した。第二に、日本の地方にインバウンド観光客を誘致するために必要な空港・航空政策を提言するために、主要国籍による地方の延べ宿泊者数を規定する要因を統計的に明らかにした。第三に、八ヶ岳観光圏エリアを対象に、地方観光地における観光客向けライドシェアサービスの成立可能性を、住民に対する独自パーソナルトリップ調査から簡易に評価した。第四に、東京都奥多摩地域を対象に、レンタサイクル事業者が取得した貸出自転車の位置情報から、利用者の施設立ち寄りのパターンなどの行動特性を分析した。

地域観光プランニング：観光まちづくりの計画技術の体系化研究（川原晋、岡村祐）

観光まちづくりの計画技術の体系化をめざして、日本建築学会の小委員会として活動している研究である。行政の観光計画の対象がソフト中心となっている状況に対して、より質の高い観光「エリア」を作っていくための景観や公共空間の魅力化といったハードと、観光コンテンツの開発などのソフトが連動した計画論をめざしている。それぞれに関わる先進事例の調査をもとに、従来の観光計画や都市計画・まちづくりとの関係のなかでポジショニングをしつつ、手法の要点を整理している。具体的には、地区スケールで環境・空間改善や、地理的・空間的・人的環境の中で観光資源をとらえることを重視し、実効性ある公民連携の取り組みとするための、フロートビジョンと実行チームのつくり方、社会実験を通しての事業化といったプロセスデザイン、持続的な観光地経営のためのエリアマネジメント組織や観光財源確保の方法

等である。

今年度は、持続性のある観光地形成の方法として、地域に新たな雇用を生みだせる事業、さらには、その経営者が次の事業展開や地域に再投資できる余力を生み出せる事業としての「ガチ・ビジネス」の創出が重要と考え、これを支援するファンドや、ハンズオン支援の仕組みと要点を、先進事例の調査から整理した。(事例：湯田中温泉郷「WAKUWAKU やまのうち」等)。



地域観光プランニングの要点の1つ：
ガチビジネスの考え方

地域観光プランニングカレッジ：観光まちづくり人材教育プログラムの開発 (川原晋, 岡村祐)

地域観光プランニングの方法論を体験的に学ぶ、全国の学生を対象とした3～5日の合宿型ワークショップ「地域観光プランニングカレッジ」の3回目を実施した。今年度は志摩市浜島町・英虞湾をフィールドとし、漁業資源や国立公園の環境を生かした3週間滞在型ウェルネスツーリズムの企画立案を行った。研究者、実務家からなる共同研究者13名の指導のもと、学生16名、地元住民や事業者約10名が参加した。過去2回に比べて、事



観光地域プランニングカレッジ
in 志摩市浜島町・英虞湾 発表風景

前のフィールド調査の充実や、地域住民や医療、漁業関係者との密なやりとりにより、地域観光プランニングの要点の一つである、地域人材の特徴を活かしたチームメイキングや事業提案、進め方を考える「人材指向型の計画アプローチ」が充実し、「主体の見えるプロジェクトの提案」につながった。また、3週間という日本においてまれな観光スタイルを考えるテーマ設定は、観光と暮らしをつなぐ発想の提案につながっている。地元大学によるフォローアップも授業として実現するなど、Project based learningの新たな形も示せた。

観光まちづくりオーラルヒストリー編集手法：文化・芸術資源の価値や産地保全に配慮した観光活用に向けて (川原晋, 野田満)

観光地域づくりの初期段階の作業として、資源保有者や管理者の取り組みや想いを、連携する関係者と共有していくことが重要だと考える。その方法として、ステークホルダー個人への十分な聞き取り調査結果を一次データベースとして、個人の営みの積み重ねからなる地域の歴史をとりまとめ、さらに、観光戦略に資するように、資源の時空間整理や文脈整理を個人の語りに紐付いた形まとめる「観光まちづくりオーラルヒストリー」という調査・編集手法を提起し、試行している。2017～8年度は、登山観光地における観光と環境保全に尽力してきた観光事業者と地域住民を対象に実施し、「高尾山観光まちづくりオーラルヒストリー」として取りまとめ、高尾山駅及び参道周辺整備計画の付録編として八王子市ホームページで公開されている。

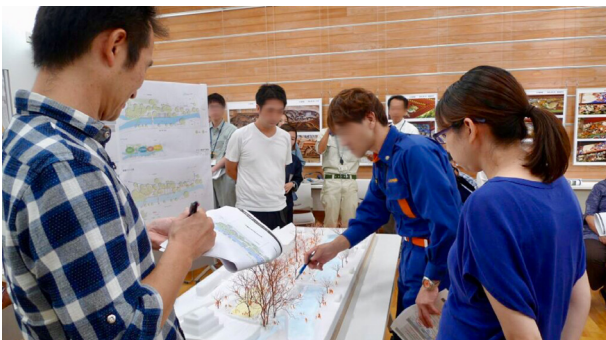
2019年度は、温泉街振興と「萩焼」窯元振興の連携を目指す地域における窯元集落への調査を通して、この調査・編集手法が、文化・芸術資源の価値や産地の環境保全に十分配慮しながら観光活用を目指すことに対して、どのように活用できるかを研究した。調査企画・インタビュー調査と集落空間調査・編集の各フェーズで具体的成果イメージを提示しながら、5窯8名の作陶家の個々の懸念・ニーズを把握するプロセスを丁寧に踏んだ結果、最終的に、①個人保有資料、②集落内限定共有アーカイブとしての「萩焼深川窯史」、③温泉街との共有、情報発信テキストとしての「萩焼深川窯史<抜粋版>」を取りまとめた。これは、成果資料の情報公開範囲に段階を設け、それぞれに掲載内容を調整することで、茶陶として名高い「萩焼」のブランド価値の低下や、窯元集落に観光客が押し寄せないように配慮しつつ、萩焼という一級の地域資源を観光活用することに向けた基礎情報と、相談体制、信頼関係を構築することにつながった。

官民学連携型&一気通貫型チームによる高尾山駅前の水辺空間整備計画 (川原晋, 岡村祐)

世界一の登山客数である高尾山麓エリアにおいて、8年の実績により、薬王院や氷川神社、住民、商業者、鉄道事業者、新規体験コンテンツ事業者と八王子市8部署、東京都、2大学による、多主体連携で様々な観光地域づくりに取り組んでいる。2018-19年度は、高尾山駅前の水辺空間の計画策定にワークショップ方式で取り組んだ。2018年度は、案内川護岸を階段状に親水化する計



萩焼深川窯史 成果資料



水辺計画ワーキングの様子

画を策定し、2019年度は隣接する広場の設計をおこなった。地域の人の水辺での遊びや憩いの記憶やニーズを受け止め、また、登山客と地元通勤通学客の動線整理、サイン・広告コントロールなど、総合的な取り組みとなっている。これを可能にしているのは、地元の住民・事業者、および東京都・市8部署を横つなぎするデザイン協議チームが組織化されていることであり、計画から施工、運営管理までを公民双方が一气通貫で関わり続けられる検討チームとなっていることは特筆するに値する。これにより、東京都管轄の河川護岸と、市管轄の広場を一体的に計画でき、また、計画時の豊かな活用イメージが竣工後の管理・運営者にも着実に引き継がれるプロセスを構築している。

大田クリエイティブタウンの構想と実践（岡村祐）

大田区は世界に負けない技術を誇るモノづくりと豊かで楽しい暮らしが重なり合うまちである。地域自ら持続的に価値を育む「クリエイティブタウン」という将来像実現に向けて、大学（首都大学東京、横浜国立大学）や地元工業者等が中心となり2017年4月に（一社）お

たクリエティブタウンセンターを設立した。これをプラットフォームとして各種プロジェクトを展開している。具体的には、期間限定で工場を一斉公開する「おたオープンファクトリー」の企画や多様な地域活動の拠点として空工場をリノベーションした「くりらぼ摩川」の運営を行った。これらに加え、さらに、クリエイティブネットワーク、モノづくりマッチング、モノづくり観光、モノづくりのまちづくりなど、新規事業の実施に向けて検討を行っている。2019年度は、これらの取り組みに対する地域住民の参加や認知に関するアンケート調査の実施、全国各地のオープンファクトリー実施地域（燕三条、東大阪等）との交流、第9回おたオープンファクトリーの企画運営などに取り組んだ。

都市近郊における散策路事業の成立構造・計画思潮の変遷と縮退時代における活用可能性（片桐由希子、岡村祐）

本研究は、「散策路事業（＝散策路の整備・設定や、まち歩きイベントの開催）」が、健康、レクリエーション、モビリティ等、散策する市民のライフスタイルの変化から生み出されるプッシュ要因と、郊外・行楽地開発、自然・文化資源の保全活用、コミュニティ形成等、来訪者を受け入れる地域側が期待する環境形成につながるプル要因から成り立つという仮説のもと、第一に、「散策路事業」の通史研究（時代区分と各時代の特徴解明）、第二に、特定地域における散策路事業の事例研究、第三に、「暮らし体験型散策路」の計画提案・実践・評価を研究課題として掲げている。2019年度は、東京都における散策路事業の歴史的展開に関して、その研究成果を国内外で発表した。また、大学の演習プログラムを経て提案された散策路の提案を受けて、アウトレットモール運営会社との共同研究「アウトレットモール来訪客への「暮らし体験型散策路」の計画提案—犬連れの来訪客を中心として」に取り組んだ。具体的には、推奨ルートを示したマップ

の制作・配布、アンケート調査、施設内での展示、フォトコンテストなどのプロジェクトを実施した。なお、本研究は、科学研究費基盤研究(C)の助成を受けて実施した。

茅ヶ崎市下寺尾官衙遺跡群における遺跡まちづくりの実践 (岡村祐)

茅ヶ崎市北西部に位置する「下寺尾官衙遺跡群」は、約1300年前の郡役所、寺院、祭祀場、川津(港)の痕跡が確認されている貴重な遺跡である。これを対象に、アーバンデザインセンター・茅ヶ崎の一員として遺跡まちづくりの調査研究を進めている。2019年度は、遺跡まちづくりを進めるための基礎的調査として、1)遺跡周辺での暮らしやなりわい、記憶、そして遺跡を生かしたまちづくりについて地域の方々へのインタビュー調査、2)「地形」「人々の営み」「遺跡群」の視点から景観調査を実施した。これらに、昨年度の遺跡表示方法の実験内容も加えて、2017年秋頃からの活動成果をまとめた「茅ヶ崎遺跡まちづくりBOOK2020」を編集・発行した。なお、本研究は、公益信託大成建設自然・歴史環境基金の研究助成を受けて実施した。

花街空間研究—祭礼と花柳界の関係— (岡村祐)

近年、多くの花柳界では、地域の観光振興や伝統文化の継承等を目的に、料亭や茶屋等が集積する花街空間内外を問わず、イベントや祭事への出演といった「お座敷外活動」を積極的に取り入れている。一方、地域コミュニティの構成員として、地域における祭礼においては、まちなかの巡行や舞台等での舞踊の披露など、芸妓の出演が行われてきた。本調査では、浅草、八王子、新潟、京都、長崎、福岡の祭礼時を研究対象として、花柳界の出演シーンの形態的、空間的特徴から、神事のなかでの役割の遂行、地域コミュニティとの紐帯、伝統芸能の継承といった花柳界の動機を見出すことができた。なお、本研究は、科学研究費基盤研究(B):伝統文化継承装置としての花街建築および景観の全国的体系化とマネジメント(代表 新潟大学 岡崎篤行)の助成を受けて実施した。

五輪景観(Olympic-scape)創出に向けた競技会場の計画・デザイン及びメディアとの連携:ロンドンの事例研究(岡村祐)

2012年開催のロンドン五輪では、競技会場やその背景となる町並みを取り込んだ競技シーンが、メディアを通じて世界へと発信され、ロンドンのシティプロモーションへ大きく寄与した。本研究では、こうした選手+競技会場+都市による重層的景観を「五輪景観」と定義し、競技会場の計画・デザイン方法、及び当該景観を発信したメディアとの連携について、文献調査や関係者へのヒアリング調査を通じて、分析・考察する。2019年度は、具体的には、ロンドン五輪で「五輪景観」を生み出した3つの競技会場(グリニッジ公園馬術会場、ホースガーズパレードビーチバレーボール会場、市内マラソンコース)を取り上げ、これらが公式映像(IOCのYoutube五輪チャンネル)のなかで、どのように映し出されているのかを分析、考察するとともに、現地での実際の見え方を検証

した。なお、本研究は、首都大学東京傾斜的研究費(部局分)若手の助成を受けて実施した。

訪日インバウンドプロモーションにおける成田空港トランジット&ステイプログラムの活用可能性(片桐由希子、清水哲夫)

訪日インバウンド観光の需要拡大に向け、旅行先として日本を認知していない欧米豪の訪日無関心層の取り込みが必要となっている。トランジットプログラムは、中継国や空港、航空会社がトランジット旅客に提供する観光プログラムであり、無関心層に体験を通じた一次情報によるデスティネーションイメージを形成する、観光プロモーションである。本研究では、成田空港のトランジットプログラムを対象とし、関係者へのインタビューとプログラムの分析を行い、訪日インバウンドプロモーションにおける体験型の観光プロモーションとしての特徴を明らかにし、その相補的な発展の可能性について検討した(鈴木太一修士論文)。

地域に活動の場を見つける入り口としてのプロジェクトスクールの実施(片桐由希子)

谷中地区では、近年観光客の増加と不燃化促進や相続に伴う近年の開発・更新、都市計画道路の見直しの動きが加速しており、地域の歴史文化、生活資源を継承するための制度提案や事業を実践できる人材やそのネットワークの強化が必要となっている。そこで、2016年よりプロジェクトスクール@谷中として、東京文化資源会議の支援を受け、関連制度や建築・保全の技術、事業計画、地域住民との意見交換などの「講義」と調査・研究やプロジェクトを提案する「実践」の2本だてのプログラムを試行している。2018年度は、6月から9月の約3ヶ月間、実践課題は、すでに地域で活動をする主体のサポートを得ながら、暮らしや仕事、コミュニティに関わる小さなプロジェクトを実践する、参加費有料のプログラムを企画した。各プロジェクトは現地調査や生活者、観光客へのヒアリングを踏まえて企画、講師及び地域住民による意見交換の場を経て実践され、いくつかの継続・発展的な取り組みに繋がっている。

レスポンスブル・ツーリズムを軸とする持続的地域開発のモデル構築(片桐由希子)

本研究では、カンボジア・プレアビヒア州をフィールドとして、レスポンスブル・ツーリズムを軸とする持続的地域開発のモデル構築を目指すものである。具体的には、地域の歴史文化資源を掘り起こした上で、地域が抱えている社会・経済・環境の諸問題や地域ガバナンス体制を構造的に把握し、持続的開発の方針・計画・デザインを提案するとともに、分野横断的な方法を体系化し、社会実装につなげるための活動支援拠点を検討する。本年度は、カンボジア・プレアビヒア州の中でも、コーケー寺院とその周辺の集落を対象とした、現地調査を行うとともに政策、計画・開発、交通・インフラ、歴史・考古学、観光、環境の各分野6名の州行政担当者とのワークショップを実施した。(鹿島学術振興財団研究助成)

米国ハリケーン・サンディー Rebuild By Design にみる 減災都市デザイン戦略と手法の展開（片桐由希子）

都市型洪水に対する減災都市デザインフレームワークの提示を目的とし、現在進行中である米国東海岸のハリケーン・サンディーからの復興・減災デザイン Rebuild By Design (RBD) を対象とした事例研究を行った。空間的なデザインによる減災都市は、都市スケールでの展開が必要なため、事業化にあたっての同意形成や資金の確保が困難である。複数のプロジェクトの中から、事業化が進む Big-U、流域としてデザインを提案した Living with the bay を対象とし、自治体（ニューヨーク市）、建築設計事務所、研究者へのインタビューを通じて、それぞれに災害直後のデザイン提案から事業化までのプロセスと関係主体の役割を把握した上で、現地の地理・空間的な条件を踏まえ、デザインフレームワークとしての可能性を分析した（大林財団研究助成）。

淡路島ロングトレイル構想プロジェクトの全体統括を通じた「観光むらづくり」の理論構築（野田満）

本研究は、淡路島・洲本市市原集落への継続的関与を通じた企画調査及び実証実験によって、「定住人口の為の雇用創出」と「交流人口・関係人口の関与を前提とした集落の空間や慣習の維持管理」を併せ持った計画論としての「観光むらづくり」の理論的枠組みを提示することを目的としている。

今年度は、過去の来訪者・参加者を一同に集めた「ALT サミット」を実施し、ファンからサポーター、プレイヤーとして継続的にむらづくりに関わる人員を補強すると共に、トレイルコースの保全を兼ねた対外イベントを定例的に行った。次年度も引き続き集落住民との協働を通して地域の持続的振興に貢献すると共に、プロジェクト成果の一般化、理論化に取り組む予定である。

なお本研究は公益財団法人トヨタ財団「林道の観光ポテンシャル調査～再び山と共に生きる為の里山資産の読み換え」及びトヨタ自動車株式会社「環境教育×アウトドア」のコミュニケーションツールの制作を通じた「参加型環境保全観光」による助成を受けて行われたものである。

過疎地域自治体による姉妹都市提携の実態と活用可能性の検討（野田満）

本研究は過疎地域自治体を対象に、圏域に依拠しない広域ネットワークによる自治体間連携の活用可能性についての検討を試みるものである。

今年度は、過疎地域自治体の姉妹都市連携の担当セクションを対象としたアンケート調査のデータ分析により、具体的な取り組みとして相手自治体への表敬訪問や小学生を対象とした相互交流、相手自治体の情報発信、相手自治体の特産品等の販売の割合が大きい点、モチベーションの不足や自治体間の距離の大きさが課題となる傾向にある点、一方でこうした課題の所在に反して多くの自治体が今後取り組みの拡大を想定している点等を明らかにした。新たな締結については殆どの自治体が消極的であるが、相手自治体からの要請に関しては提携に

応じる向きを示しており、今後の姉妹都市提携の潜在的可能性を示唆する結果となった。今後はより具体的提携や及びそれに基づく取り組みに迫り、自治体間の意思疎通や地域づくりの発展プロセス等について詳細に把握することを課題としたい。

なお本研究は文科省科研費「過疎自治体の地域づくりのための国内姉妹都市研究～今日的課題と活用プロセスの解明」による助成を受けて行われたものである。

過疎山間集落における「記憶の収集」と地域づくりに向けた今日的活用（野田満）

本研究は過疎山間集落である高知県の町神谷北地区を対象に、集落住民の「暮らしの記憶の採集」を足掛かりに、今後の集落の持続的振興に向けた今日的活用を検討するものである。遂行にあたり、地元の協力者や大学生等の関係人口による地域研究ユニット「タテマエ」を発足し、研究活動を越えた地域とのコミュニケーションや生活課題へのサポート、継続的な関係づくり等を積極的に努めている。

今年度は、昨年度のオーラルヒストリー調査の結果を踏まえた「生活環境リサーチ」を実施し、現在の地域づくりに向けた意見や課題の収集を行った。これらのデータ及び定期的に開催したワークショップの結果に基づき、「神谷地域づくりアクションプラン」として15のプロジェクト提案に取りまとめた。次年度はアクションプランの実践に向けた集落内の体制づくり、及びユニットの更なる増強に努め、引き続き神谷北地区の地域づくりへの支援を進めていくと共に、一連の取り組みそのものを関係人口を伴う地域づくりの計画理論として取りまとめることを課題としたい。

なお本研究は公益財団法人ロッテ財団「過疎山間集落の「記憶の採集」による食文化史の解明と今日的活用に関する実践的研究」による助成を受けて行われたものである。

フエ歴代皇帝陵周辺集落との協働による歴史的環境のマネジメント手法（古川尚彬, 川原晋）

当該研究は、ユネスコ世界遺産に登録されているベトナム・フエ歴代皇帝陵を対象に、その歴史的環境保全に関与する周辺集落との協働による歴史的環境のマネジメントのあり方について模索するものである。当該地域の文化的景観や水利システムといった地域資源を適正な形で現代社会の中で保全・活用し、持続可能な地域開発につなげていくためのマネジメント計画を地元行政へ提案した。単なる開発規制によって景観を規制するのではなく、地域のステークホルダーとの協働によって、景観を保全・再生、管理していく手法の確立が求められる中、同マネジメント計画案を実現していく方策の一つとしてエコスタディツアーを地域の中で実装させるための取り組みを行なった。

具体的には、初代皇帝の陵墓「嘉隆帝陵」と一体として計画された周辺環境にある魅力を味わってもらう仕掛けを用意したスタディツアー（日本語ガイド、英語ガイド）を外国人旅行者向けに実施した。そこには現地の観光局や旅行会社にも参加してもらい、多主体が参加する

コミュニティツーリズムの運営モデルのあり方についても検討することができた。

尚、当該研究は、科研費基盤研究（B）『フエ歴代皇帝陵周辺集落との協働による歴史的環境のマネジメント手法』の一環として実施したものである。

国内外における高度観光経営人材育成プログラム調査研究（平田徳恵、清水哲夫）

本研究では、MBA等を含む修士や博士プログラムなど国内外の観光経営人材育成の大学教育プログラム実施状況を調査し、観光振興・政策立案に資する知見を蓄積した上で、今後の高度観光人材育成の考え方を整理することを目的とした。具体的には、まず国内の観光系大学院の修士・博士課程の網羅的調査および観光MBA学位コースを提供する全2事例の大学院を調査した。その結果、教育提供背景の相違や教育機関と観光産業側の意図に齟齬があること等を把握した。また、海外におけるMBAプログラムについて調査し、抽出した3大学の教育プログラム実施状況と国際学会の現状について整理した。変化の速い観光産業やデスティネーションマネジメント分野の対応の遅れ、他のMBAプログラムと比した際の相対的魅力の低さ等の課題を把握した。これらの調査と国内外の観光MBAプログラムが抱える課題整理から、我



豪州ビクトリア大学ビジターエコノミースクール
ディレクター Joanne Pyke 氏ヒアリング調査



PhD コロキウム会場@ TTRA（国際学会）

が国の国際競争力を高めるための高度観光経営人材育成プログラムの方向性について提言した。

持続可能な観光地づくりのための観光政策立案実践人材に求められる専門スキルの把握（平田徳恵）

持続的な観光まちづくりのためには、観光の経営と地域づくり・地域資源マネジメントを両輪で連携しながらの実践が必要である。自治体や地域の事業者などの多主体で、各地の地域創生を実現していく官民協働での観光まちづくりを進めるためには、地域の自治体内に適切な政策立案やこれらとの整合性のある施策および事業立案のできる知識を持つ観光政策立案実践人材が必要となる。この仮説のもと、観光関連政策に関わる自治体職員に必要となるスキルを把握するため、特徴的な観光関連政策立案や実践に関わった自治体職員および地域のキーパーソンについて抽出を行った。これらの人材に対するプレインタビュー調査および調査設計を行いキーパーソンのキャリアパス把握の準備をした。最終的に観光政策立案実践人材のための教育プログラムの提案に向け研究を進めている。なお本研究は、科研費若手研究を受け実施した。

観光まちづくりに資する企業博物館の在り方に関する研究（平田徳恵、川原晋）

本研究においては、企業博物館の展示コンテンツの提供方法の変遷と来館者との関係の変遷から美容体験コンテンツを観光へ活用する可能性について言及した。研究方法としては、まず展示コンテンツの提供方法について、企業博物館の設置及び来館者の利用の仕方と展示内容から分析を行った。また展示見学を目的としない人も立ち寄ることのできるパブリックスペースの在り方について、事例分析と施設関係者へのインタビューを行った。美容体験コンテンツを活用しての地域と関連性をもつ観光へと繋がる要素は、1) 化粧品購買層に訴求する美容体験コンテンツによる遠方からの観光客の増加、2) 敷地外エリアをも活動範囲とする美容体験コンテンツの導入による周辺地域への関わりの増加、3) 館内パブリックスペースにおける展示コンテンツの多様化による来館者層の拡張、であることが分かった。なお本研究は、本研究科の博士前期課程学生と協力のもと実施した。協力学生：古谷梨伽子

研究者による住まい・まちづくりの専門的知識を一般市民と共有する取り組み（平田徳恵）

日本建築学会の住まい・まちづくり支援建築会議情報事業部会では、住まいやまちづくりに関わる活動を支援し、社会公共に寄与することを目的として、市民が正確な知識を持ち、住まいやまちづくりに対する理解を深め、市民の活動を活性化するための情報普及活動に取り組んでいる。この活動において、研究者と一般市民の間の垣根を低くするため、住まいやまちづくりに関する情報の共有ができるような仕組みづくりおよび情報公開を行ってきた。特に昨今、全国的に問題となっている空き家対策に関して、市民のみならず自治体の空き家対策担当者

等へも有用となると考えられる情報公開のための内容や手法を検討した。加えて、年度末には、マイナス資源としての空き家の予防や有効な空き家活用のために、他業種専門家との連携をも視野に入れ、司法書士や宅地建物取引等の関連専門家を招いてのシンポジウムを企画した(新型コロナウイルス感染拡大により開催延期)。

研究者による住まい・まちづくりの専門的知識を一般市民と共有する取り組み(上原明, 矢ヶ崎太洋)

本研究では、高尾山に関する書き込み(Tripadvisor)を対象に言語内容(752件の書き込み)を解析し、観光目的としてのイメージを抽出した。その結果、「行く」、「登る」(動詞)や「高尾山」(名詞)などが多く出現した。書き込みの内容に関しては、登頂手段、景色、気軽、活動、混雑感に関する関連語が多く、観光客がこれらの内容に関してイメージを持っていることが示唆された。このようなレビューサイトへの投稿は、観光地で行われる観光活動や経験、イメージなどを通じて友人やその他の人々との個人の体験や意見を共有している。このようなレビューサイトの書き込みを分析することにより、訪問者のイメージや観光経験を捉えることが可能である。また、観光振興に向けた初期段階に使用する参考情報として、訪問者イメージや潜在的な関心を明らかにすることを定量的に把握することが可能となる。

2.3 行動・経営科学領域

対話型周遊プラン作成システム CT-Planner の柔軟性の拡充(倉田陽平)

今年度新たに開発された CT-Planner の API を活用し、尾道市立大学経済情報学部高山毅教授とその学生との共同研究により、CT-Planner 上でねらったプランをより作成しやすくするため、作成途中のプランの一部を固定する機能や、作成したプランに名称を付与し、共有する機構を試験実装し、その評価を行った。

まち歩きを加味した観光プランニング支援手法の構築とその検証(倉田陽平)

従来の CT-Planner はあらかじめ登録された「主要な観光対象」を効率よく巡るプランを提示することに主眼が置かれていたが、「主要な観光対象」を訪れたついでに近辺の観光資源をついでに巡る街歩きスタイルの観光の支援を考慮し、観光資源の周辺 200m にある Google Places に登録された Tourist Attractions の情報を用いて周辺散策の充実度を評価し、それをプランニングの際に配慮に入れる機構を東京大学原辰徳研究室との共同研究により試作し、また、ユーザ実験を通じて、ユーザによるまち歩きに関わる判断の支援への有用性を示した。必ず訪れたい主要な観光対象ではまち歩き込みでの旅行体験の想起の効果がみられ、訪れようか迷っているところでは積極的・消極的の両面で決定後押しの効果がみられた。また、主要な観光対象の滞在を早めに切り上げまち歩きと両立するなどのユーザの考えの傾向も明らかになった。

観光者の環境配慮行動を誘発する他者行動(倉田陽平)

地域の ICT 事業者や地域振興組織などが CT-Planner に準備されている観光地データおよびプラン推薦機能を外部のウェブサイトなどで利用できるよう、東京大学原辰徳研究室との共同研究により API を作成し試験公開を行った。

オンライン仮想観光ツアー作成ツールの改良と教育現場での応用(直井岳人)

科研 C 研究の初年度のステップとして、他者の環境配慮行動が観光者の環境配慮動機と環境配慮行動意向に及ぼす影響を説明するモデルを提唱した。具体的には、観光学と環境心理学の先行研究を概観し、外部刺激としての他者の環境配慮行動が人の環境配慮行動を促しうること、非日常生活圏における外部刺激による訪問客の環境配慮行動意向への影響を検証した先行研究が非常に少なく、他者の環境配慮行動の影響を検証したものはないことが分かった。以上を踏まえ、環境配慮動機(MTE)の枠組みを観光研究に初めて適用し、他者行動としてビーチクリーニングが海水浴客の環境配慮動機に直接的な、環境配慮行動意向に間接的な影響を及ぼすと仮定したモデルを提唱した。モデル検証のための実証研究を次年度以降に予定している。

見残し・やり残し感が、観光地ロイヤルティに及ぼす影響（河田浩昭，直井 岳人）

本研究は、見残し・やり残し感（Incomplete Planned Experiences：IPE）の概念を提唱し、それを観光地ロイヤルティ説明モデルに組み込んだ初めての試みである。調査では東京ディズニーランドを対象地とし、調査会社のモニターを対象とした質問票調査を実施し、324名の有効回答を得た。回答を共分散構造分析を用いて分析した結果、IPEが満足度に有意な正の影響を与える場合に、それを通してロイヤルティに有意で間接的な正の影響を与えることが示唆された。また、期待はロイヤルティに間接的に有意な正の影響を与えるが、IPEには有意な影響を与えなかった。以上の結果より、IPEが期待とは独立した概念としてロイヤルティに正の影響を与えることが示唆され、テーマパークにおいては、来園者の期待を満たす施策に加え、満足感につながる見残し・やり残し感を生じさせる施策が有効である可能性が示唆された。

ロケ地観光における潜在的訪問客の訪問意思決定モデル（田中 涼，直井 岳人）

本研究は、先行研究にない試みとして、（潜在的）訪問客の旅行意思決定モデル（TPBモデル）を基に、調整変数としての映像作品に対する関与が、視聴者のロケ地訪問意向への諸要因の影響に与える交互作用を明らかにすることを目的としたものである。調査会社のモニターを対象としたオンライン質問票調査への有効回答316をPLS-SEMと単純傾斜分析を用いて分析した結果、映像作品による視聴者の感情的関与が高く、映像作品に反映される教育的・社会的要素を視聴者がよく汲み取っているほど、自己が知覚する行動統制に対して訪問意向の促進への相乗効果が期待される一方、他者評価の影響を受けて訪問意向を促進するという関係は弱められることが示唆された。本研究の結果は、特に観光地としての価値が社会的に根付いていない地域に対して人も呼び込むポテンシャルがロケ地観光に存在しうることを示したと考えられる。

外部イメージとそれ以外のイメージが地域の観光地としての全体イメージに与える影響（北野 駿侑，直井 岳人）

世界には著名な地域に特徴的なイメージを類似した特徴を持つ別の地域が利用する事例が存在する。こうしたイメージは外部イメージと呼ばれる。本研究は、先行研究にはない観光客の視点から、外部イメージと外部イメージ以外のイメージが地域の観光地としての好ましさに与える影響を明らかにすることを目的とした。「小京都」という外部イメージを与えうる地域として京都市、外部イメージを持ちうる地域として金沢市を対象とし、大学生の質問票調査への有効回答195名分を分析した結果、「京都らしさ」と「非京都らしさ」というイメージが、感情的イメージと共に好ましさに好影響を与えること「京都らしさ」は京都市、「非京都らしさ」は金沢市において高く評価されることが分かった。以上の結果、外部イメージを持つ地域における観光振興では、外部イメージを保持しつつ、それ以外のイメージを独自の強みとし

て打ち出すことの有効性が示唆された。

観光・交通分野におけるリスク分配契約に関する研究（日原勝也）

航空会社と空港の関係のように、異業種の主体間関係の中には、対立関係と協調関係が共存する複雑で多面的な構造を有するものがあり、契約理論、ゲーム理論等の観点から興味深い。我が国でも、地方空港が航空会社と路線収入のリスクを分配する契約例が現れ（能登空港搭乗率保証契約（2003～）等）、国交省も、羽田空港の発着枠の配分において、地方路線向け発着枠配分につき、両者のリスクシェア等の協調内容を加味する事態も生じている（2012年～）。空港のコンセッション契約においても、空港側と航空会社が需要変動リスクを共有する方式の着陸料を設定する例が生じてきている。本研究は、空港と航空会社のリスク分配契約に関する先行研究を踏まえ、より一般的な状況へ分析の拡張を試みるものである。2019年度には、DMOに代表される外部の旅行需要促進のための組織との連携について、上記空港と航空会社との関係に加味して、不完備契約理論・ゲーム理論の観点から、どのように旅客需要変動リスクを関係者間でシェアするリスク分配契約の構造化適切かについて、基礎的な分析結果を得た。

観光地・空港経営等の競争力・効率性評価（日原勝也，小笠原悠）

空港は、交通ネットワークにおける起終点のインフラとしての役割に加え、近年、LCCの就航・進展、世界的な空港民営化（コンセッション）の進行、訪日外国人の増加等の環境変化により、空港内に商業施設を併設すること、DMOなどの地域の観光振興主体と連携するなど多機能化・多面化が進展している。従来より、空港経営の効率性評価は、人流・物流を中心に、商業施設も含めた空港の経営効率性の分析がなされてきたが、我が国における空港の経営の効率性分析は、データ制約もあり、非常に限定的である。観光地の競争力評価も同様の手法で評価されることが多い。

本研究においては、多機能化・多面化が進展する最近の空港の経営に関する効率性分析として、データ包絡分析DEA（Data Envelopment Analysis）、確率的フロンティア分析（Stochastic Frontier Analysis）などの手法を活用することにより、日本国内における空港全般についての効率性評価を試みた。協力学生：山城健悟

温泉地における客数増加の要因分析に関する研究（日原勝也，小笠原悠，鈴木祥平）

温泉浴の観光需要に与える影響は大きいですが、温泉地の宿泊人員はピーク時のバブル期前後から1,300万人泊減少しており、宿泊施設数も大幅な減少傾向となっている。温泉地の低迷要因の指摘や再活性化に関する提言が数多くなされているが、現状の温泉地

研究は各温泉地の取り組みを明らかにした定性的な研究が殆どで、地域間の比較が可能なオープンデータを用

いて客数の増加に寄与する要素を定量的に明らかにした研究は限定的である。

本研究は、データ制約から従前十分に分析されていない市町村、特に、温泉地が位置する全国 85 市町村を対象として、入湯客・宿泊客の増加に繋がる要因について、推計データを用いた新たな定量的分析を試みる。観光地へのアクセス状況などの従来から議論されている要因に加え、最近増加している訪日外国人観光客に関する要因等も加え、温泉地所在の市町村レベルで、集客にとって有効な施策・要因について新たな知見の習得が期待される。協力学生：岡本直之

ふるさと納税における「返礼品」の現状とその特性についての研究（日原勝也，小笠原悠，鈴木祥平）

ふるさと納税制度は、現在、高額返礼品、地場産品の範囲等の問題で、制度の見直しが必要とされるなど大きな岐路に立たされている。他方、こうした状況の分析の出発点となる返礼品と寄付の関係については、定量的に分析した研究が非常に限定的で、客観的な研究が十分になされていないとは言い難い。ふるさと納税制度をより良い内容とする議論に資するため、返礼品と寄付の関係を分析することは非常に重要である。

本研究は、こうした観点から、ふるさと納税の寄付先自治体を決める際、多くの人々が利用している、ふるさと納税に関するインターネット上のサイトに着目し、そうしたサイト上における返礼品の掲載内容に関するデータを独自に収集した。そのデータに基づき、返礼品と寄付の関係について、定量的な分析を試みる。まず、返礼品の分類を行い、その分類ごとに、効果的な返礼品の種類、ふるさと納税の額との関係などに関する分析を行うことで、新たな知見が得られることが期待される。協力者：関根佑輔

プライベートロジック・シェアリング・サービス (Airbnb) に関する研究レビュー（日原勝也）

本研究では、シェアリングエコノミーのなかでも、プライベートロジックのシェアリングサービス（民泊）について、web ベースのプラットフォームを用いて世界に革命的な変革をもたらした、旅行のみならず宿泊分野においても、また、不動産賃貸分野においても大きな影響をもたらした Airbnb について、経営学、経済学、社会学、情報学等他分野からの多くの研究論文について整理し、Airbnb のもたらす旅行者、ホスト、旅行業界、地域住民、地域社会等への影響や評価の方法論について、包括的に分析を行った先行研究等に基づき、我が国の状況等を加味して、より包括的な研究レビューとすることを試みているものである。非常に変化の大きいシェアリングエコノミーにおいても、安定的に拡大を続けている Airbnb をはじめとするハウジングスペースシェアリングについて、内外における最新の学術知見を整理し、今後の研究の課題等を明らかにすることが期待できる。協力学生：屋良英美絵

観光客の時空間行動の理解に基づく観光推進システムの開発 (Wu Lingling)

本研究の目的は、観光客の時空間的な行動をモデル化することにより、新しい観光レコメンデーションシステム (TRS) を構築することにある。本研究プロジェクトは 3 つのステップからなっており、まずは (1) 新しいデータソース（ジオタグ付きの写真データ、センサーデバイスのデータなど）の適用性を調査した後、それらを従来の調査データと組み合わせる観光客の時空間的行動を理解し、(2) より合理的な方法で表現できるシステムを新たに開発し、最終ステップにおいて (3) その開発したモデルシステムを活用し、観光推薦システムを構築する。

自然災害発生時の観光地イメージの変化の分析 (Wu Lingling, Shimizu Tetsuo)

本研究では、観光危機管理への示唆を得ることを目的として、観光危機管理における重要な要素である観光旅行者の行動の分析をおこなった。具体的には、観光旅行者が抱く観光地イメージ (Destination image) が自然災害の発生によりどのように変化するか、地震を例に分析した。外国人旅行者が抱く日本へのイメージが地震発生によりどのように変化するかを明らかにするために、アンケート調査を実施した。アンケート調査は、現状 (Baseline) と地震の発生からの経過日数の異なる 3 つのシナリオの 4 種類の調査票を用いて、中国と米国を対象に実施した。調査結果を用いて、観光旅行者が抱く観光地イメージ (認知的イメージと感情的イメージ) が自然災害の発生によりどのような影響を受けるのかを分析した。分析結果より、自然災害発生後における観光促進戦略へいくつかの示唆が得られた。

区間値を取る非類似度を用いたクラスタリング手法 (小笠原悠)

区間値を取る統計量と標準化の方法を提案した。その中で、一般に位相にて使用されるノルムの定義と数理統計で使用される偏差平方和の定義の違いに注目し、応用上好ましい区間値のべき乗の定義とそれに関連した特徴を明らかにした。更に、区間値を取る非類似度を利用した階層型クラスタリングの作図手法である arrow- 樹形図を用いて、これまでの研究で提案していた、異なる非類似度の定義を用いた interval-Ward 法 -A と B の違いとその安定性を、Fowlkes-Mallows 指標を用いたシミュレーションで示した。結果として、極小集合から一意的な解を限定する設定として、区間値の下限に注目した設定を用いた interval-valued Ward 法 -A は chain-effect を安定的に引き起こすことが示され、全体的には、2 次凸最適化問題を解く必要のある interval-valued Ward 法 -B が直感的に好ましい解を示すことが分かった。

ビジネスジェットの日における普及における研究 (戸崎肇)

2020 年の東京オリンピック開催など、今後日本に VIP がビジネスジェットを使って訪れる機会が増える。し

かし実情においてその受入環境は全く整っていない。今後どのように受け入れ環境の整備を行っていくかは、日本の成長戦略上、極めて重要な課題である。この問題に対して、実現可能性を最重要視した上での研究を行った。

サービス価値創造 (阿曾真紀子)

本研究は、継続研究である。サービス研究の中でも特に顧客と従業員の相互作用において従業員の知識によって価値創造される共創のプロセスに着目している。何故従業員が顧客の求めに応じる知識を蓄積できるようになったのか、またその求めに対応できる技術をどのように習得しているのかを探究している。2018年には、企業のサービスシステムを対象にした研究で学会発表した。研究の中心は、従業員と顧客が対象である。

プログラミング教育と地域資源を結びつけた観光教育および地域活性化についての研究 (阿曾真紀子)

本学に着任して以来、観光関連業界で働く人々への教育や学生への就職体験教育に関わっている。2018年からプログラミング教育と地域の資源をつなぐ観光教育に携わり、同年、奄美大島の古仁屋小学校と加計呂麻島の諸鈍小学校の授業に参加した。昨年からは、大阪府の東能勢小学校と光風台小学校、山梨県壬生第二小学校の授業に参加し、授業達成としてインターネット上に観光資源マップを作成している。こうした活動をとおして、地域を活性化するために小学校と協働し、また、これらをもとに、小学校の観光教育の研究中である。

3. 研究成果

3.1 自然環境マネジメント領域

菊地俊夫

■口頭発表

- Waldichuk, T., Kikuchi, T., Tabayashi, A. and Nihei, T. Agriculture Diversity in BC's Thompson and Cariboo Regions. Association of BC Studies, Thompson Rivers University, May, 2019.
- lizuka, R., Kikuchi, T. and Phillips, M. Change in mobility and impact of rural gentrification in remote commuter villages: The case of the rural area of Leicestershire, England. XXVIII European Society for Rural Sociology Congress, Trondheim, June, 2019.
- Kikuchi, T. Commodification of rural environments for regional development in Japan; Attention to differences of regional environments. The Workshop of Economic and Social Research Council, The University of Leicester, Leicester, August, 2019.
- 菊地俊夫, “地理学とフィールドワークの世界 (会長講演). 地理空間学会, 筑波大学 (東京大塚), 2019年6月16日.

■論文

- 飯塚 遼・太田 慧・菊地俊夫 (2019): 都市住民との交流を基盤とする都市農業の存続・成長戦略 ―東京都小平市の事例―. 地学雑誌, 128-2, 171-187.
- 菊地俊夫・田林 明 (2019): 佐賀平野における水田農業の存続・発展戦略. 地学雑誌, 128-2, 209-283.
- 田林 明・菊地俊夫・西野寿章 (2019): 山梨県甲府盆地における果樹農業の持続性. 地学雑誌, 128-2, 255-276.
- 田林 明・菊地俊夫・西野寿章 (2019): 日本農業の存続・発展戦略と地域的条件. 地学雑誌, 128-2, 337-358.
- 菊地俊夫 (2019): 東京大都市圏における「農」空間の保全と適正利用によるルーラルツーリズムの発展. 農村計画学会誌, 38巻1号, 15-1.
- 西村圭太・杉本興運・菊地俊夫 (2019): ボランティア地理情報を用いた北海道におけるサイクリストの周遊行動の分析. GIS-理論と応用, 27(2), 19-29.
- Tabayashi, T., Kikuchi, T. and Waldichuk, T. (2019): Commodification of rural spaces owing to the development of organic farming in the Kootenay region, British Columbia, Canada. Geographical Space, 12-2, 71-95.
- 菊地俊夫 (2020): 地理学とフィールドワークの世界. 地理空間, 12-3, 149-158.
- 菊地俊夫・飯塚 遼 (2020): シドニー大都市圏のビールツーリズムの発展にみる地域資源の再編プロセス. 観光科学研究, 13, 33-41.
- 吉岡誉将・杉本興運・菊地俊夫 (2020): Jリーグサッカーファンのアウェイ戦観戦行動と地域変容―スポーツイベントによる地域活性化に向けた示唆―. 観光科学研究, 13, 1-11.
- 杉本興運・菊地俊夫 (2020): 東京都台東区上野における産学官連携プロジェクトの活動報告. 観光科学研究, 13, 55-60.
- 菊地俊夫 (2020): 地域活性化に貢献できるフードツーリズム

の構造. 週刊農林, 2402号, 16-18.

- 菊地俊夫 (2020): 歴史的町並みの景観と観光. 地理月報, 557号, 2-3.
- 菊地俊夫 (2020): フードツーリズムで地域を活性化する: フードツーリズムの先進事例としてのカナダ・カウティンベイ. 週刊農林, 2407号, 6-9.
- 菊地俊夫 (2020): 日本におけるフードツーリズムの多様な展開. 週刊農林, 2410号, 6-7.

■図書・報告書

- 菊地俊夫 (2020): 赤城山北西麓 S 農場の輸送園芸農業における水平的分業システム. 犬井 正編著「日本の農村を識る―市川健夫と現代の地理学―」古今書院, 63-77.
- 菊地俊夫 (2020): グローバリゼーションと日本地誌. 矢ヶ崎・加賀美・牛垣編著「地誌学概論」朝倉書店, 37-44.
- 菊地俊夫 (2020): バンクーバー大都市圏における都市農業の発展に伴う農村空間の商品化と都市―農村共生システム. 田林明編著「カナダにおける都市―農村共生システム―農村空間の商品化と地域振興―」農林統計出版, 51-70.
- 菊地俊夫・兼子 純・田林明・仁平尊明 (2020): バンクーバー島カウティンバレー地域における農資源の活用―ワイナリーを基軸にした都市―農村共生システムの構築―. 田林明編著「カナダにおける都市―農村共生システム―農村空間の商品化と地域振興―」農林統計出版, 119-148.
- 菊地俊夫・トムワルデチュック・田林明 (2020): トンプソン・カリブー地域における大規模牧畜農場の再編とそれに伴う農村空間の商品化. 田林明編著「カナダにおける都市―農村共生システム―農村空間の商品化と地域振興―」農林統計出版, 193-216.
- 田林明・菊地俊夫・トムワルデチュック (2020): クートニー地域における有機農業の発展にみる農村空間商品化. 田林明編著「カナダにおける都市―農村共生システム―農村空間の商品化と地域振興―」農林統計出版, 217-238.
- 兼子純・菊地俊夫・田林明 (2020): ピースリバー地域における農村空間の商品化. 田林明編著「カナダにおける都市―農村共生システム―農村空間の商品化と地域振興―」農林統計出版, 239-362.
- 田林明・菊地俊夫 (2020): プリティッシュコロンビア州における農村空間の商品化による都市―農村共生システムの構築. 田林明編著「カナダにおける都市―農村共生システム―農村空間の商品化と地域振興―」農林統計出版, 263-280.
- 田林 明・仁平尊明・菊地俊夫 (2020): フレーザー川下流平野における農村空間の商品化による地域活性化. 田林明編著「カナダにおける都市―農村共生システム―農村空間の商品化と地域振興―」農林統計出版, 71-118.

沼田真也

■口頭発表

- 山口香春, 森本 彩夏, 保坂 哲朗, 沼田 真也, 佐竹 暁子 長期群集フェノロジーデータを用いた半島マレーシアにおける植物の開花・結実の解析 第51回種生物学シンポジウム, 宮崎

2019年12月

- 山口香春, 森本 彩夏, 保坂 哲朗, 沼田 真也, 佐竹 暁子 長期群集フェノロジーデータを用いた半島マレーシアにおける植物の開花・結実の解析 日本生態学会第67回名古屋(要旨のみ) 2020年3月
- Jamhari, A., T. Hosaka, S. Numata. Spatio-temporal Differences in the Activity of Brown Leech (*Haemadipsa zeylanica*) in a Tropical Rainforest in Peninsular Malaysia 日本生態学会第67回名古屋(要旨のみ) 2020年3月
- Fu, Q. H., S. Numata. What is the best viewing of plant phenological change? 日本生態学会第67回名古屋(要旨のみ) 2020年3月

■論文/図書・報告書

- 沼田真也 (2019) 観光・ツーリズム分野における生物多様性: 取り組みと課題 日本生態学会誌. 69: 23-27.
- 沼田真也 (2019) マレーシアの農村観光—トレンガヌ州 Setiu wetland を事例として— 農村計画学会. 38: 23-26.
- 沼田真也 (2019) 都市の自然環境と生物多様性の保全: 東京を事例に グリーン・エージ. 6月号: 4-7.
- Ngo, K. M., T. Hosaka, S. Numata, N. (2019) The influence of childhood nature experience on attitudes and tolerance towards problem-causing animals in Singapore. *Urban Forestry and Urban Greening*. DOI <https://doi.org/10.1016/j.ufug.2019.04.003>
- Hosaka, T., L. Di, K. Eguchi, S. Numata, N. (2019) Ant assemblages on food litter and food removal rates on different land covers in urban and suburban parks of Tokyo. *Basic and Applied Ecology*. 37: 1-9.
- Foo, Y. S., Numata, S. (2019) Deforestation and forest fragmentation in and around Endau-Rompin National Park, Peninsular Malaysia. *Tropics*. 28: 23-37.
- Ota, A., E. Takagi, M. Hashim, T. Hosaka, S. Numata. (2019) Effects of nonlethal tourist activity on the diel activity patterns of mammals in a national park in Peninsular Malaysia. *Global Ecology and Conservation*. 20: e00772
- Mahmud, M. R., S. Numata, T. Hosaka (2020) Mapping an invasive goldenrod of *Solidago altissima* in urban landscape of Japan using multi-scale remote sensing and knowledge-based classification. *Ecological Indicators*. 111: 105975.

大澤剛士

■口頭発表

- 研究と実践の隔たり、オープンデータ. 日本生態学会第67回大会. 2020年3月
- 河川の蛇行により発生する外来植物の定着スポット. 日本生態学会第67回大会. 2020年3月
- 東京都心部の緑地における樹種による暑さ緩和機能の違い. 日本生態学会第67回大会. 2020年3月
- 農業生産に貢献し得る生態系サービスの検証 - 収量データに

基づいて -. 日本生態学会第67回大会. 2020年3月

- アカスジカスミカメのフェノロジー変化が斑点米発生に及ぼす影響. 日本生態学会第67回大会. 2020年3月
- 都市生態系における生産緑地の役割. 日本生態学会第67回大会. 2020年3月
- 火入れだけでは説明できない? : 半自然草原の植物群集形成における景観構造の役割. 日本生態学会第67回大会. 2020年3月
- 鉄道駅の乗降客数が駅舎へのツバメの営巣に及ぼす正の影響. 日本生態学会第67回大会. 2020年3月

■論文/図書・報告書

- Osawa T (2019) Perspectives on Biodiversity Informatics for Ecology. *Ecological Research* 34: 446-456.
- 大澤剛士・川野智美 (2019) 特定外来生物オオハングンソウ (*Rudbeckia laciniata* L.) のマルチスケールでの管理計画立案—広域的な管理方針地図と詳細な作業計画地図の作成—. *保全生態学研究* 24: 135-134.
- 大澤剛士・天野達也・大澤隆文・高橋康夫・櫻井玄・西田貴明・江成広斗 (2019) 生物多様性に関わる政策課題を俯瞰する legislative scan —日本における研究と実践の隔たりの解消に向けて—. *保全生態学研究* 24: 135-149.
- Kondo Y, Ota K, Osawa T, Ushijima K, Kumazawa T, Nakashima K, Okuda N, Nakahara S, Baptista BV, Miyata A, Murayama Y, Onishi H, Sato K, Nakanishi H, Hayashi K, Ikeuchi U (2019) Interlinking open science and community-based participatory research for socio-environmental issues. *Current Opinion in Environmental Sustainability* 39: 54-61.
- Osawa T, Akasaka M, Kachi N (2019) Facilitation of management plan development via spatial classification of areas invaded by alien invasive plant. *Biological Invasions* 21: 2067-2080.
- Matsuzaki SS, Kohzu A, Kadoya T, Watanabe M, Osawa T, Komatsu K, Kondo N, Yamaguchi H, Ando H, Shimotori K, Fukaya K, Nakagawa M, Kizuka T, Yoshioka A, Sasai T, Saigusa N, Matsushita R, Takamura N (2019) Role of wetlands in mitigating the tradeoff between crop production and water quality in agricultural landscapes. *Ecosphere* e02918.
- Yoshida K, hata K, Kawakami K, Hiradate S, Osawa T, Kachi N (2019) Ecosystem changes following the eradication of invasive species: evaluation of various eradication scenarios by computer simulation. *Ecological Modelling* 413.

杉本興運

■口頭発表

- Sugimoto, K. Volunteered geographic information for monitoring and exploring cycling activities in the Japanese nationwide geographical space. ENTER2020 (Surrey, UK), 2020.01.08, Oral Presentation.
- 杉本興運, 観光地域分析における大規模な空間情報の利活用と可能性, G空間エキスポ, 2019年11月30日, 口頭発表.

- ・杉本興運・矢ヶ崎太洋, 都市観光地におけるインバウンド観光の進展と地域変容—東京都台東区上野を事例に—, 日本地理学会 2019 年 10 月, 口頭発表.
- ・杉本興運, 飲食店の集積と営業時間からみた東京の商業地特性の分析, 地理空間学会大会, 2019 年 6 月, 口頭発表.

■論文

- ・杉本興運・西村圭太 (2020) サイクルツーリズムの動向と地域活性化に向けた取り組み—北海道の事例を中心に—. 地理 (in press)
- ・杉本興運・太田慧・飯塚遼・坂本優紀・池田真利子 (2020) 飲食店の集積と営業時間からみた商業地特性の分析—夜間の新宿・銀座・渋谷の比較—. 地理空間 12(3), pp.227-245.
- ・吉岡誉将・杉本興運・菊地俊夫 (2020) Jリーグサッカーファンのアウェイ観戦行動と地域受容—スポーツイベントによる地域活性化に向けた示唆—. 観光科学研究, 13, pp.1-8.
- ・Sugimoto, K (2020) Volunteered geographic information for monitoring and exploring cycling activities in the Japanese nationwide geographical space. Information Communication Technologies in Tourism 2020, pp.307-319.
- ・杉本興運 (2020) 観光対象としてのジャイアントパンダとその社会的影響. 生物の科学 遺伝, 74(1), pp.91-95.
- ・西村圭太, 杉本興運, 菊地俊夫 (2019) ボランティア地理情報を用いた北海道におけるサイクリストの周遊行動の分析. GIS-理論と応用, 27(2), pp.19-29.

■図書・報告書

- ・杉本興運 (2020) 観光：東京地理入門. 朝倉書店 (in press)
- ・杉本興運・菊地俊夫 (2020) 東京都台東区上野における産学官連携プロジェクトの活動報告. 観光科学研究, 13.
- ・杉本興運 (2019) 平成の時代、新しい上野へ：未来への残像—上野観光連盟七十年のあゆみ—. 一般社団法人上野観光連盟

高木悦郎

■口頭発表

- ・Takagi, E., Kobayashi, K. Host preference and larval performance of a bark beetle and its geographic variation in Japan. Entomological Society of America, St. Louis, MI, USA. 2019 年 11 月.
- ・Smith, Z.M., Takagi, E., Kees, A.M., Chase, K.D., Aukema, B.H. Avoidance of *Ips grandicollis* to pheromones of a novel competitor, *Dendroctonus ponderosae*. Entomological Society of America, St. Louis, MI, USA. 2019 年 11 月.
- ・高木悦郎, 小林憲太, 武井進也, 大塚大, 小林元. オオシラビン丸太におけるトドマツノキクイムシの繁殖様式. 第 131 回日本森林学会大会. 名古屋. 2020 年 3 月.
- ・小林憲太, 高木悦郎. トドマツノキクイムシの母孔内における一夫二妻制. 第 131 回日本森林学会大会. 名古屋. 2020 年 3 月.
- ・武井進也, 小林憲太, 高木悦郎. トドマツノキクイムシの穿孔孔の空間分布. 第 131 回日本森林学会大会. 名古屋. 2020

年 3 月.

■論文 / 図書・報告書

- ・Ota, A., Takagi, E., Yasuda, M., Hashim, M., Hosaka, T. & Numata, S. (2019) Effects of nonlethal tourist activity on the diel activity patterns of mammals in a National Park in Peninsular Malaysia. *Global Ecology and Conservation*, 20, e00772. * 責任著者

矢ヶ崎太洋

■口頭発表

- ・矢ヶ崎太洋, 東日本大震災後の舞根地区の防災集団移転と生活再建, 人間・環境学会第 117 研究会, 法政大学, 2019 年 5 月.
- ・矢ヶ崎太洋・上原 明, 夜に対する人間の興味・恐怖と地域イメージ, 地理空間学会第 12 回大会, 筑波大学, 2019 年 6 月.
- ・YAGASAKI Taiyo and UEHARA Akira, Fear and curiosity in the darkness: Ghost tourism in Japan, The 3rd EAJS Conference in Japan, University of Tsukuba, September 2019.
- ・杉本興運・矢ヶ崎太洋, 都市観光地におけるインバウンド観光の進展と地域変容—東京都上野を事例に—, 2019 年日本地理学会秋季学術大会, 新潟大学, 2019 年 9 月.
- ・矢ヶ崎太洋・上原 明, 夜の恐怖を用いた地域共創の可能性～心霊スポット巡礼ツアーの事例～, 公立大学宮城大学地域連携センター報告会, 宮城大学, 2019 年 11 月.
- ・上原 明・矢ヶ崎太洋, 言語解析による訪問者の観光目的のイメージに関する研究～観光目的地としての高尾山を対象に～, 公立大学宮城大学地域連携センター報告会, 宮城大学, 2019 年 11 月.

■論文

- ・矢ヶ崎太洋 (2019)：東日本大震災後の人口減少と地域社会の再編—宮城県気仙沼市浦島地区の津波災害とレジリエンス—, 人文地理, 71(4), pp.371-392.
- ・矢ヶ崎太洋・上原 明 (2019)：「夜」に対する人間の恐怖と好奇心—日本における心霊スポットとゴーストツーリズムの事例—, 地理空間, 12(3), pp.263-276.

■図書・報告書

- ・矢ヶ崎典隆・矢ヶ崎太洋 (2020)：オカナガンバレーにおけるワインツーリズムによる農村空間の商品化. 田林 明 (編)：カナダにおける都市—農村共生システム—農村空間の商品化と地域振興—, 農林統計出版.
- ・土居利光編・杉本興運・矢ヶ崎太洋 (2019)：未来への残像—上野観光連盟七十年のあゆみ—, 上野観光連盟.

3.2 地域計画・マネジメント領域

清水哲夫

■口頭発表

- Choi, K., Kurihara, T., Shimizu, T. and Nguyen, V. T.: Possible utilization of tourism statistics and big data for regional tourism organizations in Japan – Quantification of effect of Snow Festival in Sapporo, Hokkaido, International Conference of Travel and Tourism Research Association 2019, Melbourne, 2019.6
- Kuki, Y., and Shimizu, T.: Impact of International and Domestic Flights to/from Japanese Local Airports on Overnight Stays of Foreign Visitors in Japan: An Analysis, 13th Conference of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, Colombo, 2019.9
- Nicholas, M. and Shimizu, T.: Foreign Tourists' Aggressive Driving Behavior in the Eyes of Bali Local Resident, 13th Conference of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, Colombo, 2019.9
- 清水哲夫, 那須和生, 片桐由希子: 観光訪問先の活動内容がアクセス交通手段に対する支払意思額に与える影響の分析, 第60回土木計画学研究発表会, 富山, 2019.11.
- 大川恭平, 清水哲夫, 片桐由希子: 混雑の事前予想と現地での知覚が及ぼす観光客の満足への影響の分析～紅葉時期の高尾山を事例として～, 第60回土木計画学研究発表会, 富山, 2019.11.
- 大澤佑, 清水哲夫, 片桐由希子: 整備新幹線開業時の並行在来線スキームが地域住民の鉄道利用時サービス水準評価に及ぼす影響の実証的分析～新潟県上越市とその周辺地域を対象に～, 第60回土木計画学研究発表会, 富山, 2019.11.
- 清水哲夫: ビッグデータ時代の観光統計をどう考えるか?, 第130回運輸政策コロキウム, 東京, 2019.7
- 清水哲夫: インバウンド+二次交通～阿蘇くじゅう観光圏をどう見るか?, 阿蘇くじゅう観光圏令和元年度第1回観光地域づくりセミナー, 阿蘇, 2019.9
- 清水哲夫: 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会におけるTDM推進に向けて, 第54回日本都市計画学会学術研究論文発表会ワークショップ, 横浜, 2019.11
- 清水哲夫, 加藤史子, 栗原剛, 柴田良馬, 鶴本浩司, 矢部直人: 第58回ESRI経済政策フォーラム/パネルディスカッション, 第58回ESRI経済政策フォーラム, 東京, 2019.11
- 佐々木邦明, 清水哲夫, 大沢昌玄, 福田大輔, 筒井祐治: 令和元年度東京都市圏交通計画協議会市区町村セミナー「～変わり始めた・変わり始める東京都市圏の人の移動～」パネルディスカッション, 東京, 2020.1
- 清水哲夫: 観光におけるデータ活用, 第5回浜名湖観光圏シンポジウム, 浜松, 2020.2

■論文/図書・報告書

- Khanal, B. P. and Shimizu, T.: Potential of Health Tourism Development in Nepal: Literature Review and Future View,

Journal on Tourism and Sustainability, Vol.2, No.2, pp.14-29, 2019.

- Khanal, B. P. and Shimizu, T.: Strategies for Development of Yoga, Ayurveda, and Meditation-based Health Tourism in Nepal: Using SWOT Analysis, Journal of Tourism and Adventure, Vol. 2, No. 1, pp.85-107, 2019.
- Kuki, Y., and Shimizu, T.: Impact of International and Domestic Flights to/from Japanese Local Airports on Overnight Stays of Foreign Visitors in Japan: An Analysis, Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, Vol.13, pp.298-313, 2019
- 中嶋紀菜里, 片桐由希子, 清水哲夫: 観光地域振興における博物館の役割と担い手, 観光科学研究, Vol.13, pp.13-21, 2020.
- 清水哲夫: 壮大な交通マネジメント実験をレガシーへ, 交通工学, Vol.54, No.4, pp.1-2, 2019.
- 清水哲夫: 地域観光振興に資するインフラ利活用の論点, 月刊建設, Vol.63, No.11, pp.4-5, 2019.
- 清水哲夫: 政策分析インタビュー～インバウンド観光の最新の動向と課題, Economic & Social Research, No.28, pp.1-4, 2020.
- 清水哲夫, 那須和生, 片桐由希子: 観光訪問先の活動内容がアクセス交通手段に対する支払意思額に与える影響の分析, 土木計画学研究・講演集, No.60(CD-ROM), 2019.
- 大川恭平, 清水哲夫, 片桐由希子: 混雑の事前予想と現地での知覚が及ぼす観光客の満足への影響の分析～紅葉時期の高尾山を事例として～, 土木計画学研究・講演集, No.60(CD-ROM), 2019.
- 大澤佑, 清水哲夫, 片桐由希子: 整備新幹線開業時の並行在来線スキームが地域住民の鉄道利用時サービス水準評価に及ぼす影響の実証的分析～新潟県上越市とその周辺地域を対象に～, 土木計画学研究・講演集, No.60(CD-ROM), 2019.

川原晋

■口頭発表

- 平田 徳恵, 川原 晋 (2019), 「持続的な観光地づくりを促すツールとしてのブルーフラッグ認証の可能性～由比ガ浜および若狭和田海水浴場の2事例に着目して～」日本建築学会大会学術講演梗概集 (選抜梗概, 都市計画), pp.41-44, 2019.09
- 古谷 梨伽子, 甲田 亮輔, 関谷 悠, 木田 もも, 川原 晋, 野田 満 (2019) 「過疎集落における地域プロモーションビデオの制作と評価 兵庫県洲本市竹原地区を事例に」日本建築学会大会, 2019.09
- 甲田 亮輔, 川原 晋, 古谷 梨伽子, 野田 満, 中村優里, (2019) 「多主体連携による観光地のプランニング手法としての『観光まちづくりオーラルヒストリー』- 東京都八王子市 高尾山地区での実践より -」日本建築学会大会, 2019.09
- 岡村祐, 川原晋, 石川宏之, 泉英明, 泉山壘威, 伊藤弘, 佐野浩祥, 永瀬節治, 永野聡, 西川亮, 姫野由香, 山崎嵩拓 (2019) 『『地域観光プランニング』における初動プログラムの開発 地域

観光プランニングカレッジ (2017-2018) の実施を踏まえて」, 日本建築学会大会, 2019.09

- 青木卓也, 川原 晋, 野田満 (2019), 「宿泊型ゲストハウスの内在的問題や対外的関係が運営目的に及ぼす影響に関する研究」, 日本建築学会大会, 2019.09

■論文

- 平田 徳恵, 川原 晋 (2020) 「ブルーフラッグの活用による持続的な観光地づくりの可能性 - 日本初認証の2地域に着目して -」, 日本建築学会技術報告集 第26巻 第63号, 719-724, 2020.6 掲載決定
- 平田 徳恵, 川原 晋 (2019), 「持続的な観光地づくりを促すツールとしてのブルーフラッグ認証の可能性 - 由比ガ浜および若狭和田海水浴場の2事例に着目して -」 日本建築学会大会学術講演梗概集 (選抜梗概, 都市計画), pp.41-44, 2019.09
- 古谷 梨伽子, 甲田 亮輔, 関谷 悠, 木田 もも, 川原 晋, 野田満 (2019) 「過疎集落における地域プロモーションビデオの制作と評価 兵庫県洲本市竹原地区を事例に」 日本建築学会大会学術講演梗概集 2019(都市計画), pp.45-48 (選抜梗概), 2019.09
- 甲田 亮輔, 川原 晋, 古谷 梨伽子, 野田満, 中村優里, (2019) 「多主体連携による観光地のプランニング手法としての『観光まちづくりオーラルヒストリー』 - 東京都八王子市 高尾山地区での実践より -」 日本建築学会大会学術講演梗概集 2019(都市計画), pp.53-56 (選抜梗概), 2019.09
- 岡村祐, 川原晋, 石川宏之, 泉英明, 泉山壘威, 伊藤弘, 佐野浩祥, 永瀬節治, 永野聡, 西川亮, 姫野由香, 山崎嵩拓 (2019) 『『地域観光プランニング』における初動プログラムの開発 地域観光プランニングカレッジ (2017-2018) の実施を踏まえて』, 日本建築学会大会学術講演梗概集 2019(都市計画), pp.57-60 (選抜梗概), 2019.09
- 青木卓也, 川原 晋, 野田満 (2019), 「宿泊型ゲストハウスの内在的問題や対外的関係が運営目的に及ぼす影響に関する研究」 日本建築学会大会学術講演梗概集 (選抜梗概, 都市計画), pp.65-68, 2019.09
- 芦澤 侑哉・川原晋・野田満 (2020) 「体験型ふるさと納税返礼品の活用によるステイクホルダー間の継続的關係構築 - 自治体・事業者・寄付者の意向に着目して -」 観光科学研究 No.14, 2020.03

■図書・報告書

- 「歴史文化資源の活用に関する共同研究 報告書」, 八王子市, 川原晋研究室, 2020.03
- 「萩焼深川窯史 - 萩焼深川窯オーラルヒストリー調査」, 萩焼深川窯振興協議会, 川原晋研究室, 2020.03
- 「萩焼深川窯史 <抜粋版>」, 萩焼深川窯振興協議会, 川原晋研究室, 2020.03 (長門湯本温泉の旅館やまちづくり関係者への限定公開)
- 「観光産業と都市計画の連携～地域が一体となって取り組むこれからの観光地経営～」, 市街地再開発協会広報誌 CITY in CTY vol.31, 鼎談記事, 2020.03, <https://www.uraja.or.jp/book/pr/>

■その他

- 川原 晋 「観光地域づくりの最前線 ～地域観光プランニング～ハード+ソフト両輪による観光地域づくりの進め方の体系～」, 東京都観光経営人材育成講座, 2020.02
- 川原 晋 「史跡を活かした観光まちづくりにむけて」, 国分寺市史跡武蔵国分寺跡整備完了記念シンポジウム「史跡を使いたおせ」, 2019.9
- 川原 晋 「『まちを編む』仕事のかたち。そこから生まれる楽しさと魅力」, 八王子市景観職員研修, 2019.12
- 川原 晋 「地域活性化に向けたまちづくり」, 長門市 北・南地区活性化事業研修会, 2019.10
- 川原 晋 「まちづくりと公共建築整備」, 国土交通大学校「建築計画 (企画・設計) 研修」2020.10
- 川原 晋 (カレッジ長), 岡村祐ほか「地域観光プランニングカレッジ2019 in 志摩市浜島町・英虞湾」, 2019.09

岡村 祐

■口頭発表

- 岡村祐・小向光・手代木茜・須田万貴 (2019) : 祭礼と花柳界の関係：祭礼時における芸妓の芸能披露のシーンに着目して, 日本観光研究学会全国大会学術論文集, 日本観光研究学会全国大会, 名桜大学, 2019年12月
 - 岡村祐・川原晋・石川宏之・泉英明・泉山壘威・伊藤弘・佐野浩祥・永瀬節治・永野聡・西川亮・姫野由香・山崎嵩拓 (2019) : 「地域観光プランニング」における初動プログラムの開発 地域観光プランニングカレッジ (2017-2018) の実施を踏まえて, 日本建築学会大会学術講演会, 金沢工業大学, 2018年9月
 - 山崎一也・岡村祐 (2019) : 「五輪景観」を創出するための競技会場計画の設計手法とそのシティブロモーション ロンドン五輪における市内中心部を敷地とした競技会場をケーススタディとして, 日本建築学会大会学術講演会, 金沢工業大学, 2018年9月
 - 小向光・岡村祐 (2019) : 東京都立美術館における収益事業としての施設貸出の現状と課題に関する研究 ファッションショーの実施事例に着目して, 日本建築学会大会学術講演会, 金沢工業大学, 2018年9月
 - 劉羽佳・岡村祐 (2019) : 陶磁器の流通・販売手法からみた中国陝西省堯頭村の窯業再生に関する研究, 日本建築学会大会学術講演会, 金沢工業大学, 2018年9月
 - Okamura Y. and Katagiri Y.(2019): Why and How have Walking-Trail Booms Occurred —On the Yaen Mountain Pass Route in the Tama Hills, Tokyo—: 4th International Conference on “CHANGING CITIES: Spatial, Design, Landscape & Socio-economic Dimensions”, Chania, Crete Island, Greece, 24-29 June 2019
- ##### ■論文
- 天目岳志・岡村祐 (2019) : 地方空港ターミナル内貸室の地域交流拠点としての活用に関する研究, 都市計画論文集, 54(3), pp.1387-1394
 - 岡村祐・川原晋・石川宏之・泉英明・泉山壘威・伊藤弘・佐野浩祥・永瀬節治・永野聡・西川亮・姫野由香・山崎嵩拓 (2019) :

「地域観光プランニング」における初動プログラムの開発 地域観光プランニングカレッジ (2017-2018) の実施を踏まえて、日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1 (選抜梗概), pp.57-60

- ・ 山崎一也・岡村祐 (2019): 「五輪景観」を創出するための競技会場計画の設計手法とそのシティプロモーション ロンドン五輪における市内中心部を敷地とした競技会場をケーススタディとして、日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1 (選抜梗概), pp.49-52
- ・ 小向光・岡村祐 (2019): 東京都立美術館における収益事業としての施設貸出の現状と課題に関する研究 ファッションショーの実施事例に着目して、日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1 (選抜梗概), pp.69-72
- ・ 岡村祐・片桐由希子 (2019): 散策路事業における都市ストックの創出と継承の視点 (特集: 健康な都市に向けたランドスケープデザイン), ランドスケープ研究, 83(3), pp.288-291
- ・ 岡村祐・小向光・手代木茜・須田万貴 (2019): 祭礼と花柳界の関係: 祭礼時における芸妓の芸能披露のシーンに着目して、日本観光研究学会全国大会学術論文集, 34, pp.189-192
- ・ 岡村祐・日比谷佳乃 (2019): 東京都心部における観光案内所の設置に関する研究, 都市計画報告集, No.18, pp.208-213
- ・ 劉羽佳・岡村祐 (2019): 陶磁器の流通・販売手法からみた中国陝西省堯頭村の窯業再生に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1, pp.1085-1086

■報告書

- ・ アーバンデザインセンター・茅ヶ崎 (2020): 『遺跡まちづくり BOOK 2020』

片桐由希子

■口頭発表

- ・ 片桐由希子・鳥山昇吾・土井祥子 (2019): 都立谷中霊園の緑の変化と観光対象としての評価, 2019年度日本造園学会全国大会 (ポスターセッション), 2019.5. (筑波大学)
- ・ 片桐由希子・土井祥子 (2019): 都立谷中霊園の緑の変遷と管理, 2019年度日本建築学会全国大会, 2019.8. (金沢工業大学)
- ・ 中村優里・片桐由希子 (2019): 全国都市緑化フェアの効果とイベントレガシーとしての評価 9都市におけるケーススタディを通じて, 2019年度日本都市計画学会全国大会, 2019.11.9 (横浜開港記念会館)
- ・ 加藤禎久・福岡孝則・片桐由希子 (2019): 空き地のグリーンインフラ再利用を軸に敷地と都市スケールの取り組みを連動させるには - アメリカ・デトロイト市の事例から, 2019年度日本都市計画学会全国大会, 2019.11.10 (横浜開港記念会館)

■論文

- ・ 中村優里・片桐由希子 (2019): 全国都市緑化フェアの効果とイベントレガシーとしての評価 9都市におけるケーススタディを通じて, 都市計画論文集, 54(3), 268-275
- ・ 加藤禎久・福岡孝則・片桐由希子 (2019): 空き地のグリーンインフラ再利用を軸に敷地と都市スケールの取り組みを連動させるには - アメリカ・デトロイト市の事例から, 都市計画報

告集, 18, p.112-116

- ・ 中嶋紀菜里・片桐由希子・清水哲夫 (2020): 観光地域振興における博物館の役割と担い手, 観光科学研究, Vol.13, 13-21.
- ・ 福岡孝則・片桐由希子・加藤禎久 (2020): フィラデルフィア市におけるグリーンインフラ計画と実装の仕組みに関する研究, 都市計画論文集, 55(3) (掲載予定)

■図書・報告書

- ・ 岡村祐・片桐由希子 (2019): 散策路事業における都市ストックの創出と継承の視点, ランドスケープ研究, 83(3) (特集記事)
- ・ 片桐由希子・上野裕介・徳江義宏 (2019): 健康な都市に向けたランドスケープデザインの論点, ランドスケープ研究, 83(3) (特集企画)

野田満

■口頭発表

- ・ 野田満・川原晋・甲田亮輔・古谷梨伽子・関谷悠・木田もも: 地域内外協働による地域プロモーションビデオ制作 - 兵庫県洲本市竹原地区における域学連携プロジェクトを事例に、農村計画学会春期大会ポスターセッション, 2019.04
- ・ 野田満: ヨソモノによるケのデザインを目指して～高知県の町神谷北地区 5集落における取り組み、日本建築学会農村計画委員会秋季学術研究会「集まりカタ・関わりカタのデザイン」、2019.09
- ・ 野田満: 過疎地域自治体による姉妹都市提携の実態に関する基礎的研究、日本建築学会関東支部発表会優秀研究報告集 (掲載決定)、2020.03

■論文・図書・報告書

- ・ 野田満: 「観光むらづくり」試論、農村計画学会誌 Vol.38-1、pp.37-40、2019.06

平田徳恵

■口頭発表

- ・ 平田徳恵・川原晋: ブルーフラッグの活用による持続的な観光地づくりの可能性～日本初認証の2地域に着目して、日本建築学会 (北陸) 大会学術講演, (都市計画) 7020 選抜梗概: オーガナイズドセッション, 2019年9月

■論文

- ・ 平田徳恵・川原晋 (2020): ブルーフラッグの活用による持続的な観光地づくりの可能性～日本初認証の2地域に着目して、日本建築学会技術報告集 第26巻 第63号, pp.719-724. (2020年6月号掲載決定)
- ・ 平田徳恵・川原晋 (2019): 持続的な観光地づくりを促すツールとしてのブルーフラッグ認証の可能性～由比ガ浜および若狭和田海水浴場の2事例に着目して～, 日本建築学会 (北陸) 大会学術講演梗概集 (都市計画) 7020 選抜梗概 (OS) pp.41-44.

■図書・報告書

- ・ 清水哲夫, 平田徳恵 (編著) 「東京都観光経営人材育成事業」

高度観光経営人材育成に向けた調査・研究業務(2020年3月)
 ※国内の情勢：観光経営人材育成を巡る観光 MBA 最新情勢や国内の観光関連の修士・博士プログラムの状況等についての執筆を主に担当

上原 明

■口頭発表

- ・ 矢ヶ崎太洋・上原明, 夜に対する人間の興味・恐怖と地域イメージ, 地理空間学会第 12 回大会, 筑波大学, 2019 年 6 月
- ・ Yagasaki Taiyo, Uehara Akira, Fear and curiosity in the darkness: Ghost tourism in Japan, The 3rd EAJIS Conference in Japan, University of Tsukuba, 2019 年 9 月
- ・ 伊井大樹・上原明・直井岳人・飯島祥二, 観光目的地の商業環境における観光者と地元事業者のトランザクション: 沖縄県那覇市国際通り周辺の商業施設におけるフロント・バックの事例を通して, 第 34 回日本観光研究学会全国大会, 名城大学, 2019 年 12 月

■論文

- ・ 矢ヶ崎太洋・上原明 (2019) : 「夜」に対する人間の恐怖と好奇心 - 日本における心霊スポットとゴーストツーリズムの事例 -, 地理空間, 12 (3) ,pp.263-276.
- ・ 上原明・直井岳人・飯島祥二・伊良皆啓 (採択済み) : 観光者の購買を促す店舗の評価に関する研究—沖縄県那覇市国際通り周辺街における土産物購買の場合—, 観光研究, 32 (1)
- ・ Experiential Consumption and Marketing in Tourism within a Cross-Cultural Context (2019) , 第 3 章: The evaluation of shops that fosters tourists' purchase behavior—A case of tourists' purchase of souvenirs in a shopping district in Naha city, Goodfellows Pub Ltd, pp.24-41.

3.3 行動・経営科学領域

倉田陽平

■口頭発表

- ・ 伊豆田皓平, 高山毅, 原辰徳, 倉田陽平 (2020) 「対話型周遊プラン作成システム CT-Planner の柔軟性の拡充」, 2020 年 3 月, 第 82 回情報処理学会全国大会, 新型コロナウイルス対策のため現地開催中止 (オンライン発表) .
- ・ 原辰徳, ホーバック, 倉田陽平: 「サービスデザインとディステーション・マーケティング- 余白のある観光プランニングサービスを導入し, 得られたデータを利活用する -」, 2020 年 3 月, サービス学会第 8 回国内大会, 新型コロナウイルス対策のため現地開催中止 ,pp.315-318.
- ・ 青池 孝, ホーバック, 原辰徳, 太田順, 倉田陽平: 「観光サービスにおける旅行者の入込み許容度の動的変化」, 2020 年 3 月, サービス学会第 8 回国内大会, 新型コロナウイルス対策のため現地開催中止 (オンライン発表) ,pp.334-341.
- ・ 原辰徳, ホーバック, 宮本瞭, 青池孝, 太田順, 倉田陽平: 「まち歩きを加味した観光プランニング支援手法の構築とその検証」 観光情報学会第 19 回研究発表会講演論文集, pp.16-19, 2019 年 6 月, 東京
- ・ 原辰徳, Ho Quang Bach, 倉田陽平: 「観光プランニングサービスの基盤化と社会展開～地域向け技術と API 公開と発展研究～」 観光情報学会第 16 回全国大会, 2019 年 6 月, 米子

直井岳人

■口頭発表

- ・ Nakamata, R., & Naoi, T., The effect of information intervention on a model of potential visitors' intentions to avoid visiting volcanic destinations, Travel and Tourism Research Association 2019 International Conference, Melbourne, Australia, 2019 年 6 月
- ・ Tachikawa, M., & Naoi, T., Effects of crowding in two adjacent subspaces on favorability of the entire space, The 10th Advances in Hospitality and Tourism Marketing and Management (AHTMM) Conference, Sao Paulo, Brazil, 受理 (2021 年 6 月予定) .

■論文 / 図書・報告書

- ・ Kawada, H., & Naoi, T. 2020. Effects of incomplete planned experiences on destination loyalty: The Tokyo Disneyland Theme Park Case. A referred full research paper of The Council for Australian Tourism and Hospitality Research Education (CAUTHE) 2020 Conference (Auckland University of Technology, Auckland, New Zealand): 12 pages.
- ・ Naoi, T., Shoshiroda, A., & Iijima, S. 2020. How others' behaviours affect visitors' pro-environmental behavioural intention: a research model based on the case of beach cleaning. The International Journal of Tourism Science (13): 43-53.
- ・ 田中涼・直井岳人 (2019) Film Induced Tourism における旅

行者の訪問意思決定：態度形成理論と聴衆関与の概念に基づく研究モデルの提示，日本観光研究学会全国大会学術論文集，34，pp. 157-160.

- 伊井大樹・上原明・直井岳人・飯島祥二（2019）観光目的地の商業環境における観光者と地元事業者のトランザクション：沖縄県那覇市国際通り周辺の商業施設におけるフロント・バックの事例を通して，日本観光研究学会全国大会学術論文集，34，pp. 169-172.
- 直井岳人・河田浩昭（受理）観光におけるサービスの側面とそのマネジメント（依頼原稿）サービスソロジー学会誌「サービスソロジー」特集号「ツーリズムと地域資源」

日原勝也

■論文

- HIHARA Katsuya, "Analysis of Airport- Airline Relationship with a Third Party Tourism Promotion" Informs International Conference working paper, 2019年6月9日-12日 (Mexico・Cancun)
- HIHARA Katsuya, "Analysis of Airport- Airline Relationship with a Third Party Tourism Promotion" 日本地域学会 (Territory, Tourism and Sustainable Development), 2019年9月12日-13日 (福岡・久留米大学)
- 山城健悟、小笠原悠、日原勝也 「我が国空港の効率性評価について—包絡分析法を用いて」 応用地域学会・研究報告会，2019年11月 (佐賀・佐賀大学)

■図書

- HIHARA Katsuya and MAKIMOTO Naoki (2018), Analyses of Risk Sharing Contract -- Bargaining and Agency Analysis, Airline Economics in Asia (Advances in Airline Economics 7th edition, J.K. Brueckner, M. Dresner, T. Oum et al. ed.)(Emerald Group Publishing), pp. 267-286
- HIHARA Katsuya (2019), "Analysis of Airport- Airline Relationship with a Third Party Tourism Promotion," Applied Regional Science Conference Annual Meeting at Kurume University, Fukuoka, working paper

Wu Lingling

■論文

Wu, L., & Shimizu, T. (2020). Analyzing dynamic change of tourism destination image under the occurrence of a natural disaster: Evidence from Japan. Current Issues in Tourism. (in press)

小笠原悠

■口頭発表

- DEA から見た横浜市の胃がん・大腸がん検診受診率の効率性，小笠原悠，ヘルスケアのOR 第1回研究会，2019/5/18.

- Comparing two clustering methods for interval-valued data, Yu Ogasawara, Yuto Hisano, and Masamichi Kon, International Conference on Nonlinear Analysis and Convex Analysis-Optimization Techniques and Applications, 2019/8/30.
- 日本の空港における効率性分析—包絡分析法と確率的フロンティア分析法を用いて—，山城健悟，日原勝也，小笠原悠，日本交通学会 2019 年度研究報告会，2019/10/20.
- 主要温泉地への訪問客数に関する定量的分析，岡本直之，小笠原悠，日原勝也，日本交通学会 2019 年度研究報告会，2019/10/20.
- 日本の空港における効率性分析 ～包絡分析法と確率的フロンティア分析法を用いて～，山城健悟，小笠原悠，日原勝也，東北 OR セミナー 2019；若手研究交流会，2019/11/30.
- 我が国の市区町村別宿泊データの信頼性とその偏り，小笠原悠，日本観光研究学会第 34 回全国大会，2013/12/15.
- ふるさと納税の現状と観光関連返礼品の受入金額・件数に及ぼす影響，関根佑輔，小笠原悠，鈴木祥平，日原勝也，サービス学会第 8 回国内大会，2020/3/12.

■論文

- 日本の空港における効率性分析—包絡分析法を用いて—，山城健悟，小笠原悠，日原勝也，交通学研究，63，39-46，2020.
- 我が国の市区町村別宿泊データの信頼性とその偏り，小笠原悠，日本観光研究学会全国大会学術論文集，34，429-432，2019.
- 地域観光統計の整備・講評の状況と課題，岡本直之，小笠原悠，鈴木祥平，日原勝也，観光科学研究，13，61-70，2020. 小笠原悠

阿曾真紀子

■報告書

- 総務省平成 31 年度「地域 IoT 実装推進事業 地域の歴史資源と自然資源の情報を小学生が発信するプログラミング教育」報告書，令和 2 年 3 月。(分担執筆)

4. 特定学術研究

4.1 自然環境マネジメント領域

(No.675), 平成 27 ~ 令和元年度 (代表)

菊地俊夫

- ・ 基盤研究 C (一般): フードツーリズムのフレームワークを用いた農村再生システムの地理学的研究 .. 平成 29 年 ~ 32 年度 (代表・採用)
- ・ 上野観光連盟: 上野地域の観光活性化プロジェクト、上野の杜文化プロジェクト.
- ・ 東京都産業労働局観光部: 東京における MICE の調査研究.
- ・ 東京都産業労働局農政部: 東京における農地保全における市民農園・農業体験農園の役割に関する調査研究.
- ・ Economic and Social Research Council Fund (UK Royal Academe): Explorations of comparative ruralism in the UK and Japan

沼田真也

- ・ 平成 30 年度 科研費 挑戦的萌芽研究代表者「自然保護地域の持続的管理に寄与するバーチャルハンティングプログラム開発」採択
- ・ 平成 31 年度 SATREPS (地球規模の環境課題の解決に資する研究) 研究分担者「マレーシア国サラワク州の国立公園における熱帯雨林の生物多様性活用システムの開発 (京大・市岡孝朗)」

大澤剛士

- ・ 基盤研究 B (一般): 海洋島における外来生物の侵略性: 植物の栄養利用特性と生態系の土壌特性との相互作用. 2019 年 ~ 2021 年度 (分担)
- ・ 基盤研究 B (一般): 農地景観の変化と気候変動が水田害虫の分布拡大に与える影響: 長期データによる検証. 2016 年 ~ 2020 年度 (分担)
- ・ 基盤研究 C (一般): 景観遺伝学的解析をもちいたツキノワグマの遺伝構造を形成する環境要因の解明. 2018 年 ~ 2020 年度 (分担)
- ・ 三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング, 共同研究, (資金提供型)

杉本興運

- ・ 科研費 若手研究: 観光行動の実践的調査・分析フレームワークの構築と地域マネジメントへの活用, 平成 31-33 年度 (代表) ※新規獲得
- ・ 研究分科会活動経費 (日本観光研究学会): ナイトライフ観光とナイトタイムエコノミー 平成 28 - 29 年度 (分担)
- ・ CSIS 共同研究 (東京大学): 都市観光地における観光地マネジメントの課題解決と再構築に向けた地域・観光動態研究

高木悦郎

- ・ 科研費 若手研究: 樹皮下キクイムシの産卵嗜好性と寄主利用能力およびその地理的変異の解明. 2019 年度 - 2021 年度 (代表)

4.2 地域計画・マネジメント領域

清水哲夫

- ・ 基盤研究 B 「アジア途上国における多様なコネクティビティを有する国境横断型まちづくりの研究」(研究代表者: 張峻屹 広島大学教授, 2019 ~ 2021 年度)
- ・ 基盤研究 B 「データフュージョンによる時空間解像度の高い地域観光統計整備手法の開発」(研究代表者: 清水哲夫, 2020 ~ 2022 年度) (内定)
- ・ 基盤研究 C 「観光混雑回避に向けた自発的行動変容を促すゲーミフィケーション導入に関する実証研究」(研究代表者: 染突平東洋大学助教, 2020 ~ 2022 年度) (内定)
- ・ 国土交通省国土技術政策総合研究所委託研究「地域づくりに資する ITS 等の活用に関する研究」(研究代表者: 清水哲夫, 2016 ~ 2019 年度)
- ・ 東京都産業労働局観光部委託事業「観光経営人材育成事業」(実施代表者: 清水哲夫, 2017 ~ 2019 年度)

川原晋

- ・ 基盤 A 「観光地環境管理と市場活動の統合型計画技術『地域観光プランニング』の詳細化と実装化」H29 年度採択、研究代表者
- ・ 基盤 B 「伝統文化継承装置としての花街建築および景観の全国的体系化とマネジメント」H28 年度採択、研究分担者 (研究代表者: 岡崎篤行 新潟大学)
- ・ 基盤 B 「ベトナム香江流域圏における歴史生態学的環境の持続的マネジメント計画論の構築」H31 年度採択、研究分担者 (研究代表者: 佐藤滋 早稲田大学)
- ・ 【受託研究: 八王子市 都市戦略部 日本遺産準備担当課】「歴史文化資源の活用に関する共同研究」, 受託組織: 川原晋研究室, R1.9 - R2.3
- ・ 【受託研究: 萩焼深川窯振興協議会】萩焼深川窯オーラルヒストリー調査 及び資料作成委託, 受託組織: 川原晋研究室, R1.9 - R2.3
- ・ 【東京都立大学 傾斜的研究費 学長裁量枠 社会連携支援】「産官学共創型の観光地形成と経営のモデル化」, 川原晋, 野田満, 清水哲夫

岡村祐

- ・ 基盤研究 (C): 生活都市のビジョンの共実現と持続可能な観

光の連動的な展開 (代表 金沢工業大学 片桐由希子), 研究分担者, R2-4

- ・ 基盤研究 (B): 景勝地型観光地における大型宿泊施設群の多角的再評価と再生手法の確立 (代表 新潟大学 松井大輔), 研究分担者, R2-4
- ・ 挑戦的研究 (萌芽): 地域文化システムとしての料亭に関する組織と変遷 (代表 新潟大学 岡崎篤行), 研究分担者, R2-4
- ・ 基盤研究 (C): 都市近郊における散策路事業の成立構造・計画思潮の変遷と縮退時代における活用可能性, (代表 首都大学東京 岡村祐), 研究代表者, H30-32
- ・ 基盤研究 (A): 観光地環境管理と市場活動の統合型計画技術「地域観光プランニング」の詳細化と実装化 (代表 首都大学東京 川原晋), 研究分担者, H29-32
- ・ 基盤研究 (A): ユネスコ「歴史的都市景観に関する勧告」後の都市経営戦略確立に関する研究 (代表 神戸芸術工科大学 西村幸夫), 研究分担者, H28-31
- ・ 基盤研究 (B): 伝統文化継承装置としての花街建築および景観の全国的体系化とマネジメント (代表 新潟大学 岡崎篤行), 研究分担者, H28-31
- ・ 共同研究: 「アウトレットモール来訪客への「暮らし体験型散策路」の計画提案—犬連れの来訪客を中心として」, 三井不動産商業マネジメント株式会社

片桐由希子

- ・ 基盤研究 (C): 生活都市のビジョンの共実現と持続可能な観光の連動的な展開 2020 年度～2022 年度 (代表者)
- ・ 科研費 基盤 (B): 都市近郊における散策路事業の成立構造・計画思潮の変遷と縮退時代における活用可能性 2018 年度～2020 年度 (分担者)
- ・ 科研費 基盤 (B): 東アジア巨大都市における新自由主義型都市計画制度の成果と形成過程 2018 年度～2020 年度 (分担者)
- ・ 科研費 若手研究 (B): 都市郊外部における公園緑地の管理運営に関する評価指標の設定と評価システムの構築 2017 年度～2019 年度 (代表)
- ・ 鹿島学術振興財団研究助成: レスポンシブル・ツーリズムを軸とする持続的地域開発のモデル構築 -カンボジア・ブレイブピア州における実践的問題解決型研究- 2019 年度 (代表 村山顕人)
- ・ 大林財団研究助成: 米国ハリケーン・サンディー Rebuild By Design にみる減災都市デザイン戦略と手法の展開 2019 年度 (代表 福岡孝典)

野田満

- ・ 文科省科研費若手研究 B: 過疎自治体の地域づくりのための国内姉妹都市研究～今日の課文科省科研費若手研究: 「関係人口」の再定義を踏まえた過疎地域の計画論構築～地域づくりの実践を通して, 2020-2022 (代表) ※新規獲得
- ・ 公益財団法人トヨタ財団 国内助成プログラム (しらべる助

成): 林道の観光ポテンシャル調査～再び山と共に生きる為の里山資産の読み換え, 2018-2019 (プロジェクト統括支援)

- ・ 公益財団法人ロッテ財団 奨励研究助成: 過疎山間集落の「記憶の採集」による食文化史の解明と今日の活用に関する実践的研究, 2018-2019 (代表)
- ・ トヨタ自動車株式会社トヨタ環境活動助成プログラム国内小規模プロジェクト: 「環境教育×アウトドア」のコミュニケーションツールの制作を通じた「参加型環境保全観光」, 2019-2021 (プロジェクト実施担当)
- ・ 公益財団法人マツダ財団研究助成 (青少年健全育成関係): フィールド調査及び企画運営を通じた子ども食堂の潜在的意義と今日の課題に関する基礎的研究, 2020-2022 (代表) ※新規獲得

平田徳恵

- ・ 科研費 若手研究: 観光政策立案実践の為に自治体職員に必要な専門スキル把握と教育プログラムの提案, 平成 30- 令和 2 年度 (代表)

4.3 行動・経営科学領域

倉田陽平

- ・ 採択済: H28-H30 科学研究費補助金 基盤研究 (B) ビッグデータを活用した観光地圏域のターゲット層別抽出と観光圏政策の評価・提言 (分担, 代表: 清水哲夫, 今年度配分 60 万円)
- ・ 採択済: H26-H29 JST RISTEX 研究開発成果実装支援プログラム 旅行者と地域の共生に資する観光プラン作成支援技術の基盤化と社会実装 (分担, 代表: 原辰徳 (東大))

直井岳人

- ・ 科研費 基盤 (C): 観光者の環境配慮行動を誘発する他者行動: 旅の恥をかき捨てない観光者行動の為に, 令和元年—令和 3 年度 (代表)
- ・ 科研費 基盤 (C): 人生 100 年時代のシニア留学: 異文化接触がもたらす認知変容からの分析と提案, 平成 30 —令和 2 年度 (分担)

日原勝也

- ・ 科研費 若手研究: 観光振興主体・空港・航空会社間のリスクシェアリング・メカニズムに関する研究, 2019 — 2021 年度 (代表)
- ・ 首都大学東京 平成 30 年度傾斜的研究費 (部局分) 国際化推進経費, 令和元年度 (代表), - ラスバールマス大学観光と持続可能性経済に関する研究所 (Tides) との部局間協定他の連携の準備・調整

5. 学生教育

5.1 所属学生

2019年度は学部生 97 名,大学院生 73 名の計 170 名(うち留学生は 18 名)が在籍した。

学部生

1 年 31 名,2 年 32 名,3 年 16 名,4 年 18 名が当コースに在籍した。本年度進級した 3 年生の分属前の所属については,8 名が都市環境学部地理環境コース,1 名が都市環境学部都市基盤系,7 名が都市教養学部人文社会学系,1 名が都市教養学部経営学系,3 名が都市教養学部理工学系,2 名が編入学である。

博士前期課程(修士課程)

修士課程 1 年 17 名(うち留学生 1 名),修士課程 2 年 14 名(うち留学生 2 名)が当学域に在籍した。

博士後期課程(博士課程)

博士課程 1 年 3 名,博士課程 2 年 7 名(うち留学生 5 名),博士課程 3 年 14 名(うち留学生 10 名)が当学域に在籍した。

留学生

上記のとおり,留学生は修士課程 3 名,博士課程 15 名の計 18 名である。出身国は下表のとおりである。

留学生の出身国の内訳

出身国	修士課程	博士課程	合計
インドネシア	0 名	5 名	5 名
中国	2 名	1 名	3 名
マレーシア	0 名	3 名	3 名
バングラデシュ	0 名	3 名	3 名
タイ	0 名	1 名	1 名
ネパール	0 名	1 名	1 名
ベトナム	0 名	1 名	1 名
東ティモール	1 名	0 名	1 名

5.2 研究室への配属

4 年生以上 73 名の学生の配属先研究室は下表のとおりである。

各研究室所属の学生数

領域	研究室	卒論生	修士課程	博士課程	計
自然	菊地 俊夫	4	6	2	12
自然	沼田 真也	1	6	8	15
自然	大澤 剛士	3	2	1	6
計画	清水 哲夫	3	6	7	16
計画	川原 晋	2	4	2	8
計画	岡村 祐	3	5	2	10
行動経営	直井 岳人	1	2	2	5
行動経営	日原 勝也	1	0	0	1

5.3 学位論文

博士論文

所定の審査を受け,下表に示す 3 名の博士論文が合格した。

2019 年度博士論文一覧

氏名	論文タイトル	主査
九鬼 令和	訪日外国人旅行者(中国、韓国、台湾)の延べ宿泊者数の影響要因とそれらに基づく政策評価の研究	清水 哲夫
Khanal Bishnu Prasad	A Study on Health Tourism Development Policy in Nepal	清水 哲夫
Nicholas	A Study on Local Resident's Acceptance to Driving Tourist by Focusing on Tourist's Aggressive Driving Behavior - A Case in Bali, Indonesia	清水 哲夫

修士論文

所定の審査を受け,下表に示す 14 名の修士論文が合格した。

2019 年度修士論文一覧

氏名	論文タイトル	主査
OLDA E MARTIRES	Comparative Studies on Package Tours of the After-MICE for International Visitors: A Case Study of Hachiohji-City, Tokyo, Japan	菊地 俊夫
岩間 宏明	周辺環境を含めた遺跡の展示に関する研究 神奈川県茅ヶ崎市下寺尾官衙遺跡群を事例として	岡村 祐
前 奈津実	コミュニティ放送局による観光行動誘発の可能性	岡村 祐
関谷 悠	空き家活用の視点から見た分散型ホテル事業の特徴	岡村 祐
古谷 梨伽子	化粧品会社の企業博物館と来館者の関係変遷にみる美容体験コンテンツの観光活用可能性	川原 晋
甲田 亮輔	都市農家と飲食店の連携による農産物ブランドの展開-国分寺市「こくべじ」プロジェクトを事例として-	川原 晋
山城 健悟	我が国の空港の効率性分析-包絡分析法と確率的フロンティア分析を用いて-	直井 岳人
四百目 拓磨	市民マラソン大会開催における地域連携の構造とそれに基づく地域振興の可能性について	菊地 俊夫
塚本 幸哲	アジアの先進国と途上国における環境価値志向と自然的景観の好みの関係	沼田 真也
田中 涼	Film Induced Tourism における旅行者の訪問意思決定モデル-態度形成理論を援用した聴衆関与の交互作用効果の検証-	直井 岳人
内山 貴久	野生動物の生息が都市公園・緑地の経済的価値に与える影響:多摩ニュータウンを事例に	沼田 真也
付 瓊慧	Understanding of the best viewing of plant phenology based on biological and human dimensions	沼田 真也
木田 もも	大都市近郊における農業の 6 次産業化とそれに基づく「農」空間の持続的利用:埼玉県三芳町上富地区を事例にして	菊地 俊夫
鈴木 太一	訪日インバウンドプロモーションに対する成田空港トランジット&ステイプログラムの活用可能性	清水 哲夫

卒業論文

下表に示す 18 名が卒業論文を提出した。

2019 年度卒業論文の一覧

氏名	論文タイトル	主査
秋山 早菜	伝統菓子の変遷と地域の環境変化との関連性に関する研究 ー川越一番街および鐘つき通りにおけるサツマイモ菓子を対象としてー	菊地 俊夫
浅野 亮平	世界遺産ガイダンス施設に地域社会が参画することによる世界遺産活動への効果	岡村 祐
浅利 祐梨奈	地方観光地における観光客向けライドシェアサービス成立可能性評価に向けた考察 ー八ヶ岳観光圏をケーススタディとしてー	清水 哲夫
五十嵐 公太	河川における外来植物の定着プロセスとその要因	大澤 剛士
市原 恵子	地域食ブランドと地域イメージの組み合わせに基づく活性化の方策 ー東京都東村山市の地域ブランド「里に八国」を事例としてー	菊地 俊夫
江口 碧	ドリアンの生産量の変動とそれに影響する気象条件について	沼田 真也
小澤 真里奈	商店街における継続的なユニークベニューイベントに関する研究	川原 晋
北野 駿侑	外部イメージとそれ以外のイメージが地域の観光地としての全体イメージに与える影響 ー京都市と金沢市を対象としてー	直井 岳人
佐々木 穂	農業生産へ貢献し得る生態系サービスの検証 ー 大澤 剛士 収量データに基づいてー	大澤 剛士
鈴木 茉生子	立川市における経営形態別のパン屋の店舗特性に関する研究	菊地 俊夫
須田 万貴	東京近郊の祭囃子保存団体における持続的な伝承活動に関する研究 ー上尾市本町はやし連に着目してー	岡村 祐
竹田 彩夏	ユニバーサルツーリズムの推進に向けた手話観光ガイドツアーの実態把握 ー情報保障の観点からー	川原 晋
手代木 茜	海浜観光地における津波防災地域づくりに関する計画策定とその実行に観光事業者が果たす役割 ー伊豆市『観光防災まちづくり推進計画』を事例としてー	岡村 祐
野田 瑞希	プロサッカークラブのホームタウン活動による社会ネットワークの形成に関する研究 ー東京都町田市の商店街を対象としてー	菊地 俊夫
堀 裕太郎	サイクルツーリズムにおける立ち寄り行動の傾向の分析 ー奥多摩、青梅地域を事例としてー	清水 哲夫
松永 香織	東京都心部の緑地における樹種による温度低減効果の違い	大澤 剛士
三石 真由	旅行・滞在経験がライフスタイル価値観に与える影響 ー移住志向型ライフスタイル価値観の形成に効果的な旅行・滞在経験の提案に向けてー	清水 哲夫
屋良 英未絵	Airbnb に関する文献レビュー	日原 勝也

6.ECO-TOP プログラム

6.1 ECO-TOP プログラム修了者

2019年度は、学士課程2名がECO-TOPプログラムを修了した。

7.ASEAN 国際学生交流事業学生派遣プログラム

首都大学東京は、ASEAN 国際学生交流事業学生派遣プログラム (AIMS) のパートナー大学として、ツーリズムを通じた科学的視点における地域開発に焦点を当て、都市環境学部を通じた短期の留学プログラムを実施している。2019年度の学生の受け入れ、派遣の状況は以下の通りである。

Geographic Information Science for Tourism / Field Exercise in Environmental Ecology / Nature- and culture-based tourism science Seminar I / Regional environment science:practical field training / Exercise on Community Development through Tourism*

7.1 マレーシアからの学生の受け入れ

マレーシア工科大学 (UTM) の建築環境学部から計5名を受け入れた。受入期間及び講義は以下の通りである。

- ・ 受入期間 2019年9月上旬～2020年1月下旬
- ・ 講義
専門科目
Transport Planning and Management for Tourism Promotion / Regional Environmental Studies / Environmental Ecology II / Town Planning in Tourism / Tourism theories and practice / Tourism Theory II / Tourism Informatics / Exercise on

7.2 自然・文化ツーリズムコースからの派遣

自然・文化ツーリズムコースから計3名を派遣した。うち1名はマレーシア工科大学へ、2名はマレーシア・プトラ大学 (UPM) へ派遣された。派遣期間は以下の通りである。

- ・ 派遣期間：
2019年8月下旬～2020年1月下旬

8. 観光経営副専攻

8.1 観光経営副専攻コース修了者

2019年度は、下記の27名が観光経営副専攻コースを修了した。

- | | |
|------------------|----|
| ・ 都市環境学部 地理環境学科 | 3名 |
| ・ 都市環境学部 観光科学科 | 2名 |
| ・ 都市環境学部 都市政策科学科 | 1名 |
| ・ 人文社会学部 人間社会学科 | 1名 |
| ・ 経済経営学部 経営学コース | 9名 |

8.2 インターンシップ

2019年度は博士前期 (修士) 課程1年生2名と学部3年生7名の計9名が、下記の受け入れ先でインターンシップを実施した。

派遣企業：

- ・ 株式会社 ANA 総合研究所
- ・ 株式会社 味の素
- ・ 森トラスト・ホテル&リゾート株式会社
- ・ 三菱UFJニコス 株式会社
- ・ ヤマト運輸 株式会社
- ・ リゾートトラスト 株式会社

学生：

- | | |
|------------------------|----|
| ・ 都市教養学部 人文・社会系 | 2名 |
| ・ 都市教養学部 経営学系 | 1名 |
| ・ 都市環境学部 自然・文化ツーリズムコース | 4名 |
| ・ 大学院 観光科学域 | 2名 |

9. 社会貢献

9.1 自然環境マネジメント領域

菊地俊夫

- ・ 地理空間学会会長
- ・ 公益社団法人日本地理学会代議員
- ・ 東京地学協会行事委員会委員
- ・ 日本ジオパーク委員会委員
- ・ 日本オーガニック&ナチュラルフーズ協会 (JONA) 認証判定委員・委員長
- ・ 国土交通省審議会会長
- ・ 農林水産省生産資材専門委員会委員
- ・ 東京都環境局 ECO-TOP プログラム認定検討会会長
- ・ 東京都港湾局海上公園指定管理者評価・選定委員会委員
- ・ 八王子市斜面緑地保全委員会委員長
- ・ あきる野市総合計画策定委員会委員長
- ・ 調布市まちづくり審議会委員
- ・ 調布市緑の基本計画策定委員会委員長
- ・ 調布市国史跡下布田遺跡整備基本計画策定委員会委員
- ・ 名古屋インバウンド観光協会理事

沼田真也

- ・ 日本生態学会 キャリア支援専門委員
- ・ Malaysian Journal of Remote Sensing 誌 (Malaysian Remote Sensing Society) Editorial Board
- ・ 文部科学省科学技術・学術政策研究所・科学技術動向研究センター専門調査員
- ・ 八王子市環境審議会・委員
- ・ 八王子市みどりの基本計画策定懇談会・委員・座長
- ・ 国際自然保護連合 (IUCN)・世界保護地域委員会 (WCPA)・委員、観光と保護地域専門家グループ (TAPAS)・メンバー

大澤剛士

- ・ 日本生態学会・理事
- ・ 日本生態学会 代議員
- ・ 日本生態学会 電子情報委員
- ・ 日本生態学会 和文誌編集委員
- ・ 日本生態学会 英文誌編集委員
- ・ 全国野菜園芸研究大会における基調講演
- ・ 全国こんにゃく研究会における基調講演
- ・ 群馬県農政部への UAV 利用に関する指導助言

杉本興運

- ・ 日本地理学会総務委員会委員

- ・ 地理情報システム学会代議員
- ・ 日本地理学会観光地域研究グループ発起人
- ・ 査読貢献：Sustainability, ISPRS International Journal of Geo-Information, Remote Sensing

矢ヶ崎太洋

- ・ 地理空間学会・集会員

9.2 地域計画・マネジメント領域

清水哲夫

- ・ 米国旅行・観光研究学会アジア太平洋支部理事
- ・ 土木学会国際センター国際交流グループミャンマーグループリーダー
- ・ 土木学会土木計画学研究委員会 ITS とインフラ・地域・まちづくり研究小委員会委員長
- ・ 交通工学研究会研究委員会技術顧問
- ・ 交通工学研究会査読委員会委員
- ・ 公益社団法人日本観光振興協会総合調査研究所所長兼日本観光振興アカデミー学長
- ・ 特別研究員等審査委員会専門委員, 卓越研究員候補者選考委員会書面審査員, 国際事業委員会書面審査員・書面評価員 ((独法) 日本学術振興会)
- ・ 観光統計の整備に関する検討懇談会委員 (観光庁)
- ・ 観光圏整備に関する検討会委員 (観光庁)
- ・ 観光振興事業費補助金外部有識者委員会委員 (観光庁)
- ・ 全国観光圏推進協議会アドバイザー
- ・ インフラツーリズム有識者懇談会座長 (国土交通省総合政策局)
- ・ ビッグデータによる旅客流動把握の高度化に関するワーキング委員 (国土交通省総合政策局)
- ・ 地域道路経済戦略調査研究会委員 (国土交通省道路局)
- ・ 訪日外国人などの多様なニーズに応えるタクシーのあり方検討会 (国土交通省自動車局)
- ・ 東京都市圏総合都市交通体系調査技術検討会対流拠点ワーキング委員 (国土交通省関東地方整備局)
- ・ 利用者の視点に立った東京の交通戦略推進会議委員兼水辺空間活用ワーキング主査 (東京都都市整備局)
- ・ 東京高速道路 (KK 線) の既存施設のあり方検討会委員 (東京都都市整備局)
- ・ 多摩都市モノレール町田方面延伸ルート検討委員会委員 (東京都都市整備局)
- ・ 三学会合同による TDM 推進に関する検討会委員 (東京都オリンピック・パラリンピック準備局)
- ・ 宮島口における円滑な駐車及び交通誘導検討会委員 (広島県土木建築局)
- ・ まちの魅力向上に向けた道路等の公共空間活用検討会委員 (千

代田区)

- ・ 町田市交通安全行動計画策定および推進委員会委員長
- ・ 首都高交通量推計手法検討委員会幹事長兼委員 (㈱首都高速道路)
- ・ 地域連携推進団体協議会アドバイザー ((財)国土計画協会)
- ・ 観光と地域交通に関する研究会委員 ((公財)運輸総合研究所)
- ・ 観光経営力強化事業観光アドバイザー ((公財)東京観光財団)
- ・ 観光立国推進協議会二次交通専門部会委員長
- ・ ブランド戦略会議およびインバウンド・二次交通検討会議アドバイザー ((一社)ハヶ岳ツーリズムマネジメント)
- ・ 佐世保・小値賀観光圏アドバイザー ((公財)佐世保観光コンベンション協会)
- ・ 調査・研究委員会座長 ((一財)江戸東京歴史文化ルネッサンス)
- ・ 観光経営トップセミナー
- ・ 東京都観光経営人材育成講座
- ・ 観光政策概論 (東京大学公共政策大学院) (2019.6.18)
- ・ 令和元年度インフラツーリズム研修 (国土交通大学校) (2019.7.8)
- ・ 観光振興とマーケティング課題別研修 ((独法)国際協力機構) (2019.8.31, 2019.11.12)
- ・ 観光地域づくりマネージャー認定研修 (観光庁) (2019.11.5-6, 2019.12.23-24)

川原晋

【コンサルティング業務等】

- ・ ●「長門湯本温泉観光まちづくり事業 景観ガイドライン運用・設計支援業務 (分担)」, 山口県長門市, H31.4 - R2.3
- ・ ●「長門湯本温泉観光まちづくり事業 観光地経営戦略検討に関するアドバイザー業務 (分担)」, 長門市, H31.4 - R2.3
- ・ ●「長門湯本温泉観光まちづくり 観光地経営指標アンケート設計業務」, 長門市, R1.9 - R2.3

【学会活動等】

- ・ 日本建築学会 都市計画本委員会「持続可能な観光地形成小委員会」幹事
- ・ 日本建築学会 論文集編集委員会 委員

【行政委員会委員等】

- ・ 横浜市地域まちづくり推進委員会 まち普請事業部会委員
- ・ 長門湯本温泉観光まちづくりプロジェクト デザイン会議委員
- ・ 青梅観光戦略創造プロジェクト委員会 座長
- ・ 藤沢市都市景観アドバイザー (藤沢市計画建築部景観課)
- ・ 八王子市景観審議会委員 (八王子市まちなみ景観課)
- ・ 同・協議審査専門部会委員
- ・ 同・制度設計部会委員
- ・ 同・景観アドバイザー

- ・ 八王子市観光コンベンション協会 理事
- ・ 八王子市高尾山口駅周辺地区まちづくり連絡会準備会委員 (八王子市都市計画課)
- ・ 川崎市民間活用推進委員会委員 委員
- ・ 町田市観光まちづくり推進委員会 委員
- ・ あきる野市まち・ひと・しごと総合戦略推進会議 副座長

【市民まちづくり】

- ・ 一般社団法人 エリアマネジメント南山 理事 (東京都稲城市内)
- ・ 一般社団法人 大田クリエイティブタウンセンター理事 (東京都大田区内)

岡村 祐

- ・ (講演)「公立大学法人首都大学東京 第11回施策提案発表会」, 首都大学東京, 東京都庁 (東京都新宿区), 2019年7月5日
- ・ (講師)「都市工塾」, 都市工塾実行委員会, 東京大学工学部14号館 (東京都文京区), 2019年7月22日
- ・ (情報提供・ファシリテーター)「東京都アイデアソンキャラバン2019 in 中野」, 東京都戦略政策情報推進本部 ICT推進部, 中野セントラルパーク カンファレンス (東京都中野区), 2019年9月21日
- ・ (講評ゲスト)「地方創生イノベーションカンファレンス INSPIRE 2019」, ヒカリエ (東京都渋谷区), 2019年10月20日
- ・ (イベント企画運営)「第9回おおたオープンファクトリー」, 大田オープンファクトリー実行委員会主催, 2019年11月16日, 2020年2月14日・21日
- ・ (講演)「オープンファクトリーシンポジウム」, 近畿大学文芸学部 (大阪府東大阪市) 2019年12月21日
- ・ (講演)「日本フットパス協会設立10周年記念シンポジウム」, 日本フットパス協会, ベストウェスタンレンブラントホテル東京町田 (東京都町田市), 2020年2月8日
- ・ (講師)「東京都観光経営人材育成講座 観光地域づくりの最前線」, 東京都産業労働局・首都大学東京, 2012年2月12日
- ・ 日本建築学会 (地域観光プランニング小委員会委員主査)
- ・ NPO 法人アーバンデザインセンター・茅ヶ崎副理事長
- ・ 一般社団法人おおたクリエイティブタウンセンター代表副理事

片桐由希子

- ・ 都市計画学会事業委員
- ・ 造園学会編集委員
- ・ 佐倉市景観審議会委員・景観アドバイザー
- ・ 八王子医療刑務所移転後用地の活用に関する懇談会委員
- ・ 新潟県立都市公園指定管理者評価・審査委員
- ・ 三鷹駅南口駅前広場交通対策検討専門部会

野田満

- ・ 日本建築学会農村計画本委員会 幹事
- ・ 日本建築学会農村計画委員会 農村地域づくり小委員会 委員
- ・ 日本建築学会大会実行委員会 委員
- ・ 日本建築学会関東支部農村建築専門研究委員会 主査
- ・ 日本建築学会関東支部研究運営委員会 委員
- ・ 農村計画学会編集委員会 委員
- ・ 兵庫県地域再生アドバイザー
- ・ 兵庫県洲本市地域おこしマイスター
- ・ 福井県池田町観光むらづくり計画検討懇話会 委員長

- ・ Current Issues in Tourism
- ・ International Journal of Tourism Research
- ・ Tourism Geographie
- ・ Asia Pacific Journal of Tourism Research
- ・ Transportation Research Part A: Policy and Practice
- ・ Sustainable Cities and Society

阿曾真紀子

- ・ 総務省平成 31 年度「地域 IoT 実装推進事業」協議会委員
- ・ NPO 法人 アカデミア ICT 山梨支部 事務局長

平田徳恵

- ・ 日本建築学会 住まい・まちづくり支援建築会議 情報事業部会 委員（幹事）
- ・ 八王子市まちづくりアドバイザー
- ・ 調布市街づくり専門家
- ・ 東京都観光経営人材育成講座講師
- ・ 武蔵野大学 基礎セルフデベロップメント人間・環境分野 非常勤講師

9.2 行動・経営科学領域

直井岳人

- ・ 日本観光研究学会学術委員
- ・ 日本観光振興協会寄付講座実施担当

日原勝也

- ・ 一般社団法人・航空イノベーション協議会 (AIDA：代表理事；東大名誉教授鈴木真二) に参画し、その中に設けられた「地域航空検討委員会」、「人材育成検討委員会」の専門委員として、日本版のリージョナル航空の在り方につき、三菱航空機株式会社によるスペースジェットをモデル例として、東大・工学部、国土交通省、経済産業省、三菱商事、住友精密工業、東レなどの産官学の関係者ともに、精力的に調査研究を行っている。(2019年4月～)
- ・ 公益社団法人日本観光振興協会におけるトップセミナーの最終レポートのレビューアーとして、当該セミナーの質的向上に貢献 2019年11月

Wu Lingling

- ・ アジア交通学会委員
- ・ Tourism Management
- ・ Annals of Tourism Research

10. 受賞等

菊地俊夫

- ・ 2018 年度観光研究学会優秀論文賞「西村圭太・杉本興運・菊地俊夫（2018）：コミュニティサイクル利用観光者の回遊行動特性ー埼玉県川越市を事例にー」,2019.05

杉本興運

- ・ 日本観光研究学会 優秀論文賞、2019 年 5 月

川原晋

- ・ 古谷梨伽子, 甲田亮輔, 関谷悠, 木田もも, 川原晋, 野田満 (2019)「過疎集落における地域プロモーションビデオの制作と評価 兵庫県洲本市竹原地区を事例に」, 若手優秀発表賞, 日本建築学会大会, 2019.09
- ・ 甲田亮輔, 川原晋, 古谷梨伽子, 野田満, 中村優里, (2019)「多主体連携による観光地のプランニング手法としての『観光まちづくりオーラルヒストリー』- 東京都八王子市 高尾山地区での実践より -」, 若手優秀発表賞, 日本建築学会大会, 2019.09
- ・ 青木卓也, 川原晋, 野田満 (2019)「宿泊型ゲストハウスの内在的問題や対外的関係が運営目的に及ぼす影響に関する研究」, 若手優秀発表賞, 日本建築学会大会, 2019.09

岡村祐

- ・ 大田区での「おおたオープンファクトリー」の取り組みが, 厚生労働省「地域発! いいもの」(令和元年度)に選定された, (2020 年 2 月)

倉田陽平

- ・ 原辰徳, ホーバック, 宮本瞭, 青池孝, 太田順, 倉田陽平:「まち歩きを加味した観光プランニング支援手法の構築とその検証」観光情報学会第 19 回研究発表会講演論文集, pp.16-19, 2019 年 6 月, 東京, 研究発表会優秀賞受賞.

日原勝也

- ・ 博士前期課程の山城健悟君に指導を行い, 日本オペレーションズ・リサーチ学会東北支部若手研究交流会において学生優秀発表賞の受賞に導いた.
- ・ 公益財団法人日本観光振興協会が支援している観光予報プラットフォーム推進協議会が主催する「第 3 回観光予報プラットフォーム活用コンテスト」に向け, 清水研究室の学部 4 年生の三石さんを代表とする 5 名のチームの研究指導を行い, 学生部門賞受賞に導いた.

11. コース・学域プロモーション

11.1 紀要「観光科学研究」の編集・発行

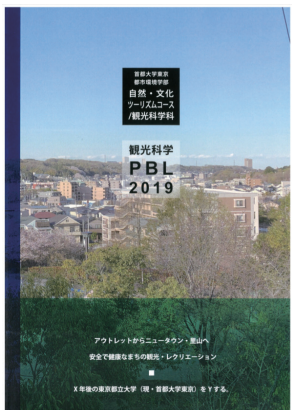
2020年3月、紀要「観光科学研究」第13号を編集・発行した。6本の論文が採択・掲載された。掲載論文の内訳は、論説4本、研究ノート1本、報告2本であった。



観光科学研究 第12号

11.2 観光を科学するPBLの発行

2019年度の学部3年生向けPBL演習の成果について、「観光科学PBL2019」と題する報告書としてまとめ発行した。



観光科学 PBL 2019

11.3 ツーリズムマガジン

学生の自主的な取材・編集によるツーリズムマガジンを3回発行し、コース/学域の最新情報や学生の生の声を学内外に発信したの声を学内外に発信した。



ツーリズムマガジン 2019年度35号

11.4 大学院入試説明会

2019年度は、大学院入試説明会を下記のとおり開催した。

- ・ 5月18日(土)





令和元年度（2019年度）首都大学東京 都市環境学部 自然・文化ツーリズムコース/都市環境科学研究科 観光科学域 学位記授与式
2020/03/21

首都大学東京都市環境学部自然・文化ツーリズムコース
首都大学東京大学院都市環境科学研究科観光科学域
2019年度アニュアルレポート

<http://www.comp.tmu.ac.jp/tourism/>

編集・発行：首都大学東京都市環境学部自然・文化ツーリズムコース
発行日：2020年5月1日

内容に関するお問い合わせ

〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1

首都大学東京 都市環境学部 自然・文化ツーリズムコース

野田 満（アニュアルレポート作成担当）

電話：042-677-1111（内）4241

Eメール：m_noda@tmu.ac.jp